

B-0262



在佛國日本大使館

昭和五年六月十日

在佛

臨時代理大使

河合 栢之

外務大臣 幣原 喜重郎 敬

平和條約實施專任陸軍委員

負報告書進達一件

今般下村信施委員より別紙一通平和條約實施  
專任陸軍委員業務概況報告書提出  
アリクニ付 右進達ス

昭和五年七月七日  
三  
5.7.2  
文書

陸請第五卷五号ノ一

終末報告轉送相成度件

昭和五年六月十日

平和條約實施委員

陸軍砲兵中佐 下村

代理大使河合栢之 敬



今般帰朝被命候、并業務終末報告トテ別冊外務大臣ニ  
提出致度 御査用ノ上 轉送相成度候也

別冊

自大正九年一月平和條約實施專任陸軍委員業務概況報告 武部  
三昭 和五年六月

(第巻、第参号 附録共)

附記

芳澤大使ニ別ニ武部提出ス

B-0262

(外務省)

秘

拾四部内第卅号



自大正九年一月至昭和五年六月平和條約實施  
專任陸軍委員業務概況報告

平和條約實施委員  
陸軍砲兵中佐 下村 定  
昭和五年六月於巴里

B-0262

目次

凡例

第一篇 沿革

第一章

第二章

第三章

第四章

平和條約實施機關ノ組織  
帝國陸軍委員ノ組織及任免  
條約實施ニ關スル列國ノ態度及我委員ノ方針  
陸軍關係業務ノ經過

第一節

通説

第二節

巴里陸軍部ノ業務  
大使會議ニ關スル件  
軍事委員會ニ關スル件  
陸軍及航空監督

第三節

對獨逸國

第四節

對奧國

第五章

對匈國  
對勃國  
國境劃定  
萊因占領軍

第二篇 現況

第一章

業務實施ノ要領  
軍事監督委員撤廢後ノ進況

第一節

獨逸國  
其他ノ諸國

第二章

萊因總撤兵

以上

凡例

一、本報告ハ昭和五年六月帝國平和條約實施事非陸軍委員ノ撤廢ニ  
方リ同委員關係業務ノ沿革及同條約陸軍關係事項履行ノ現況ヲ  
略述シ外務及陸軍當局ニ提出スルモノナリ

二、本報告ノ記述ハ總テ在巴里條約實施陸軍部ノ業務ヲ主体トセリ  
同部關係他機關業務ノ詳細ニ就テハ夫々當該主任者ノ報告ニ讓  
ル  
又帝國陸軍委員カ直接決議ニ參與シツ、アル在巴里五國軍事委  
員會ハ尚存續中ナルヲ以テ同委員會解散ノ際ニハ佛國在勤帝國  
大使館附陸軍武官ヨリ本報告提出以後ノ經過ニ関シテ別ニ報告  
セラレ、所アルヘシ

三、本報告提出（保管）先在、如シ  
外務省  
陸軍省（參謀本部へ回覽）  
在 佛 帝 國 大 使 館

四、本報告ハ上記提出官憲以外ニ對シテハ秘密ノ取扱ヲ要ス

五、條約實施初期ニ関スル事實及關係曆日等ニ就テハ當地ニ記録ノ  
據ルヘキモノニ乏シキ爲ニ三明確ナラサル點アリ必要ニ際シ上司  
ニ於テ然ルヘク御審査ヲ乞フ

（昭和五年六月 於巴里）

第一篇 沿革

第一章 平和條約實施機關ノ組織

一、大正九年（一九二〇年）一月平和條約ノ效力發生ト共ニ舊同盟及聯合國側ニ於テハ該條約實施ノ統轄及實行ニ要スル各種ノ機關設置セラレ帝國ハ五大國ノ一トシテ夫々此等ノ機關ニ代表者若ハ所要ノ職員ヲ派遣シ關係列國ト協調シテ業務ニ膺ラシメタリ  
右各機關中主トシテ陸軍ニ關係アルモノノ組織系統、現時（昭和五年）ニ於ケル存廢及帝國トノ關係ハ大要附表第一ノ如シ

二、今後、戰役殘務一層整理セラレ、曉ニ於テハ平和條約ニ關スル業務ハ悉ク國際聯盟ノ管掌若ハ關係國政府間ノ直接交渉ニ移ルヘシト雖、現在ニ於テハ未タ其域ニ達セズ同業務ノ主腦機關タル在巴里五國大使會議及其軍事諮問機關タル五國軍事委員會ハ當分尚ホ次ノ如キ編成ヲ以テ存續セラレハシ

イ、大使會議（略語 C. A.）  
佛國前駐独大使「カンボン」氏ヲ佛國代表兼議長トシ

日、英、伊、白各國ハ駐佛大使決議ニ參與シ舊敵國ノ條約履行ニ關スル諸問題ヲ處理シ對テ國政府ト接衝ス但シ白國ハ獨國關係ノ問題ニノミ決議ニ參與シ別ニ米國ハ所要ニ應ジ聽議者ヲ派遣ス  
純賠償關係ノ事項ハ本會議ノ權外トス

ロ、軍事委員會（略語 C. M. A. V.）  
開設以來「フオツ」元帥ヲ議長トセシ本會ハ同元帥ノ薨去後其後任ヲ設ケズ駐佛白國大使館附武官「ウホ」中將ヲ白軍代表兼假議長トシ日、英、佛、伊各國陸軍代表武官參列、條約中陸軍關係ノ問題ヲ審議シ大使會議ニ對スル献策及同會議ト併テ軍事情報ヲ本委員會ハ對テ手國ニ對シ自ラ條約履行ヲ要請スルノ權ヲ有セズ

三、賠償ニ關スル機關ハ今後尚ホ存續スヘキモ本報告ニハ之ニ關スル記述ヲ省テ、國際聯盟ニ就テモ亦然リ  
（以下各章同様）

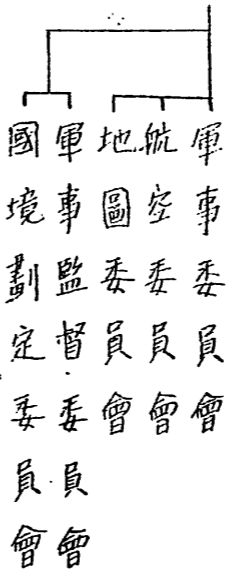


第二章 帝國陸軍委員ノ組織及任免

一、

大正八年（一九一九年）主ナル舊敵國ニ對スル媾和會議ノ終了ト共ニ陸軍少將渡辺壽以外若干ノ將校ハ外務省媾和事務囑託ヲ命セラレ續テ翌年一月十日對独平和條約ノ效力發生ト同日平和條約實施陸軍委員ノ任命アリ右委員ハ命課ニ基テ左記各機關ニ配屬セラレタリ、

最高會議  
大使會議



同時ニ巴里帝國大使館内ニ條約實施陸軍部ヲ設置セラル、  
（以下單ニ巴里陸軍部ト略稱ス）  
右陸軍委員ハ其高級者統一ノ下ニ業務上ニ關シ佛國駐劄帝國大使（但シ任地ノ關係上特ニ必要トスル者ニ對シテハ當該國駐劄帝國大使）ノ區處ヲ受ケタリ

3

二、前記委員ノ編成ハ其後各機關ノ業務進捗若ハ終了ニ伴ヒ漸次縮小セラレ昭和二年（一九一七年）以後ニ於テハ巴里陸

4

軍部ノミト成リ昭和五年八月巴里陸軍部及某專任委員ヲ廢止シテ南後佛國駐劄帝國大使館付武官トシテ兼職トシテ殘置セラレ

三、大正八年（一九一九年）以來條約實施委員トシテ歐洲各地ニ服務セシ陸軍將校附表第二乃至第四ノ如シ

B-0262



附表第三

條約 實施 巴里陸軍部服務將校名簿

下村甲佐調

考	備	服務期間(年月)	專兼任	官	氏名
二、兼ハ條約實施以外、本職ヲ有シ委員ヲ兼任セルモ 一ヲ示ス。	一、頭書ハ平和條約實施委員會任免ノ年月トス。 但シ巴里以外ニ服務セル期間ヲ含マズ。	大九、一、—   十一、三、	專後兼	少將	渡辺 壽
		大九、五、—   十三、三、	全	歩少佐(後大佐)	澁谷 伊之彦
		大九、七、—   十一、一、	專	歩大尉(後少佐)	侯爵前田 利為
		大九、四、—   十二、三、	全	同	酒井 鎬治
		大九、四、—   十二、十一、	全	砲大尉(後少佐)	岡田 實
		大九、一、—   八、十、	兼	歩大佐	永井 來
		大九、一、—   九、四、	專	砲少佐	河島 良吉
		大九、一、—   九、七、	全	歩少佐	園部 和一郎
		大九、三、—   十二、三、	兼	少將	靜間 知次
		大十二、三、—   十三、九、	全	同	林 銑十郎
		大十三、三、—   十五、八、	兼	同	大平 善市
		大十五、八、—   昭二、三、	兼(独軍監 委ヲ轉)	歩大佐	仙波 安藝
		大十三、十一、—   十五、四、	專	歩少佐	篠原 次郎
		大十五、四、—   昭三、一、	全	歩大尉	原 守
		大九、一、—   九、六、	兼(終)	歩大佐(後少將)	武田 額三
昭二、三、—   三、五、	兼	砲少佐(後中佐)	下村 定		
昭三、一、—   五、八、	兼	少將	中岡 彌高		
昭三、八、—   /	兼	少將	中岡 彌高		



附表第四  
 條約 實施 塙 甸 勃 國 方面 服役 將校 名簿  
 下村 中佐 調

服勞國方面	官	氏名
塙 塞 (後獨)	砲 大 佐	佐藤 清勝
塙 塞 (後獨)	砲 少 佐	永持 源次
塙 甸	砲 少 佐	小椋 津正藏
塙 甸	砲 中 佐	三宅 光治
塙 甸	砲 大 尉	大島 陸太郎
甸	歩 少 佐	佐野 光信
甸	歩 大 尉	馬淵 直逸
勃	砲 大 尉	藤江 惠輔
勃	歩 大 尉	安井 藤治
塙 希	歩 少 佐	服部 兵次郎
塙 塞	歩 少 佐	田中 稔
塙 塞 (後獨)	歩 大 尉	子爵 山口 十郎
塙 甸	工 少 佐	笠井 平一郎
全	砲 大 尉	林 正木
甸 塞	騎 少 佐	町尻 量基
甸 塞	騎 中 佐	茅賀 眞五
甸 塞	砲 大 尉	柳川 平助
甸 塞	砲 大 尉	西郷 勝藏
甸 塞	歩 少 佐	安藤 利吉
甸 塞	砲 大 尉	大谷 清磨

備考 附表第三ニ同シ

第三章 列國ノ態度及我カ委員ノ方針

一、舊敵國ニ對シテ負荷スヘキ條件ニ就テハ平和條約締結ノ際ニ於テ既ニ各同盟聯合國間ニ意見ノ懸隔アリ續テ米國ノ批准拒否ハ條約實施ノ上ニ甚カサル影響ヲ與ヘ爾後年月ノ経過及政情ノ推移ニ伴ヒテ聯合各國ノ舊敵國ニ對スル態度及條約履行要求ノ方針愈々変差ヲ生シ之カ爲全會一致ヲ條件トスル大使會議等ノ決議ハ漸次不徹底トナルヲ免レサルモノアリ  
加フルニ舊敵國側特ニ獨逸ハ國力漸次復興シ其國際的地位向上スルト共ニ條約履行ヲ延スルコト一再ヲラス、戰後十年ノ今日尚幾多ノ未決問題ヲ遺シツキアリ此ノ傾向ハ今後愈々増大スルモノト觀測セラル

二、最近數年來英國ハ明ラカニ舊敵國特ニ獨逸ヲ擁護スルノ態度ヲ現ハシ佛國ハ比較的公正ヲ保持シツキアルモ獨逸ニ對シテハ傳統的ニ其武力ヲ壓伏セントシ又伊國及白國ハ其地理的關係上前者ハ主トシテ獨逸ニ對シ後者ハ獨逸ニ對シテ強硬ナル態度ヲ維持シツキアリ

三、帝國委員ハ條約實施ノ當初日英同盟尚ホ存續セシ爲政府ノ訓令ニ基キ最高會議、大使會議及各委員會ニ於テ成ルヘク英國ト協調ヲ保ツコトヲ顧慮セシモ其後該同盟ノ廢棄ニ因リ必ズシテ其要コレナキニ至リシヲ以テ主トシテ條約ノ正當ナル解釋、及帝國ノ特殊ノ地位ヲ基調トシ不偏不黨ノ方針ヲ以テ各種ノ商議ニ參英シ來レリ

四、近時我カ陸軍委員ノ取扱ヘル諸問題ノ大部ハ軍事委員會本部タル佛國班ノ提案ニ同意スルヲ妥當トスルコト多カリシモ時トシテハ寧ロ舊敵國側ノ施設若ハ行爲ヲ是認セサル可ラサル場合アリキ、斯ノ如キ場合、我カ委員ハ當該條約明文ニ於ケル禁制ノ程度並問題トナレシ施設若ハ行爲、軍事的價値及其寬假カ將來ニ及ボスヘキ影響等ヲ考慮シ軍事委員會ニ於テ忌憚ナキ所見ヲ開陳シ已ヲ得サル場合ニ於テハ舊敵國ニ對スル矯正要求案ノ採擇ヲ留保セタリ

五、委員取扱ノ事項中其重要ナルモノハ必要ノ都度請訓セルコト勿論ナリト雖最近帝國ニ直接關係アル案件僅少ト成レルヲ以テ多クハ前兩條所載ノ方針ニ基キ独裁ヲ以テ決議ニ參與シ事後之ヲ關係上司ニ報告セリ

第四章 陸軍關係問題ノ經過

第一節 通説

一、本章ハ條約實施ノ初期ニ於ケル業務ノ區分ニ從ヒテ一如何ノ之ヲ記述ス

II 巴里陸軍部ノ業務  
大使會議及軍事委員會(航空、地圖委員會ヲ含ム)

ニ關スル件

III 陸軍及航空監督  
IV 國境劃定

二、(四)西機關廢止以後(附表第一参照)其發務ハ大使會議及軍事委員會ノ直接掌管スル所ト成レリ本報告第二篇ニ於テ之ヲ詳述ス

第二節 巴里陸軍部ノ業務

第一款 大使會議ニ關スル件

一、大使會議ノ組織及職域ハ第一章掲ケル所ノ如シ我カ陸軍委員ハ毎回ノ議事陸軍及航空ニ關係アル諸問題ニ關シ豫メ軍事委員會等ノ列國委員ト協議ヲ遂ケタル後其決議ノ討議ノ組織及帝國トシテ採用スヘキ意見等ヲ在佛帝國大使ニ報告シ主任書記官ト共ニ同大使ニ隨行シテ會議ニ參列シツ、アリ  
大使會議ノ決議ハ全會一致ニ依ルヲ例トス

二、大使會議ノ決議及議事録ハ在佛帝國大使館ニ保管セラレアリ右記録中ニハ軍事以外ノ事項亦頗ル多キヲ以テ本報告ニハ之ヲ添付セズ

第二款 軍事委員會ニ關スル件

一、大使會議ニ上程セラレ、陸軍及航空關係ノ諸問題ハ先ツ軍事委員會ニ於テ一當初ノ間ハ航空ニ就テハ航空委員會、國境劃定ニ就テハ地圖委員會之ヲ分掌セルコト既述ノ如シ、陸軍委員ハ問題ノ細大ニ拘

B-0262

ラス最初ヨリ審議ニ参画シタリ

二、

軍事委員會トシテ取扱ヘル事項概テ左ノ如シ

軍事委員會取扱事項

(1) 舊敵國陸軍兵力編制及裝備ニ関スル制限

(2) 築城其他陸軍防備ノ撤廢若ハ制限

(3) 軍隊ニ準スル團隊及官公吏團ノ制限

(4) 條約ニ反スル募兵及軍事訓練ノ禁制

(5) 動員ヲ容易ナラシムヘキ各種公共設備及交通施設等ノ

制限

(6) 條約ニ基ク過剩兵器彈藥材料ノ處分

(7) 舊敵國軍人ノ外國軍應聘ニ関スル取締

(8) 軍事監督ニ関スル規定方針等ノ立案

(9) 萊因占領ニ関スル業務一部ノ審議

(10) 國境劃定上陸空軍ニ関係アル事項ノ審議

(11) 舊敵國ニ配置セラレタル軍事關係各種委員ノ區處及ヒ

之カ存廢ニ関スル審議

大使會議ト上記委員トノ連絡

第三節 陸軍及航空監督

第一款 對獨國

一、獨國ニ對スル陸軍及航空ノ監督ハ其國勢上他ノ舊敵國ニ比シ最モ困難ヲ極メ幾多ノ迂餘曲折アリ今尚ホ完全ナル解決ヲ見サル所ナルカ本款ニ於テハ記述ノ便宜上主トシテ昭和二年當該監督委員撤退時ニ於ケル成果ヲ記上シ其後ノ經過ニ関シテハ更ニ第二篇ニ於テ現況ト併セ詳述スル所アルヘシ

其一 陸軍

一、兵力編制ニ関スル件（條約一五九乃至一六三、及一七三乃至一七九條）  
兵力及編制問題  
條約ニ指示スル陸軍ハ十二年勤續ノ志願兵ヨリ成ル十萬ノ軍隊ニシテ其目的ハ專ラ國土ノ秩序維持及國境ノ警備ニ任スルニ在リ其兵力ノ不足ヲ補ハントスル各種ノ手段ハ青年團等ノ軍事訓練、豫後備兵ノ召集等ハ如何ナル性質ト雖モ之ヲ禁シ且ソ動員準備ハ悉ク之ヲ嚴禁シタル兵員ヲ十萬ニ減少スルコトハ獨逸ノ最モ痛苦トセシ所ニ

シテ同政府ハ條約ニ指示セル大正九年一月九日一三、月盡日マテニ此兵力ニ縮少スルコトハ各種已ムヲ得サル理由ニ依リ實施困難ナルコトヲ陳情シ且國家ノ安寧秩序維持ニハ少クモ約二十萬ノ軍隊ヲ要ストテ屢々聯合國ニ兵力增加ヲ提議セシカ聯合國ハ之ヲ認メス唯條約所定ノ軍縮期限ヲ一九二一年一月一日マテニ延長シ略ホ其目的ヲ達スルコトヲ得タリ  
因ニ獨逸陸軍ノ編制改正ニ方リ同國政府ノ發布シタル重ナル法令ヲ列記スレハ左ノ如シ  
近衛兵ノ解散 一九一九年 三月六日  
豫備兵ノ教育施設監督ノ廢止 一九二〇年 一月二一日  
裁發兵後法ノ廢止 一九二一年 三月二三日  
材料資源、動員準備ニ関スル立法 一九二四年 三月一九日  
地方當局ノ動員書類ノ廢棄 一九二四年 七月三一日

鐵道網ノ軍事組織撤廢 一九二六年 十月二〇日  
陸軍所管舊建物、射擊場演習場等ノ廢棄處分 一九二六年 二月二二日及七、一九二七年 一月二九日

但シ其實行ニ至リテハ今日尚完全ナラサルモノ多シトセズ

以上ノ如ク遠陸軍ハ概見ニ條約所定ノ如キ條約ヲ爲シ  
アルカ如シト雖モ實質ニ於テハ各種ノ手段ヲ用ラシ強カ  
ル陸軍ヲ保持セシコトヲ努メツ、アリ、今其ノ例ヲ擧  
クレハ左ノ如シ

(1)

新軍ノ職任ニ就テ  
獨逸新軍ハ條約上ノ職任タル國內秩序維持及國境警備ノ  
限界ヲ超越セル方針ニ基キ練成セラレ最新式強國軍ヲ對  
象トシテ軍ノ使用ヲ準備画策スルノミナラス條約ニ禁止  
セラレアル兵器ノ使用等ニ就テモ各種ノ巧妙ナル手段ヲ  
盡シ有事ノ際ニ於ケル運用ニ遺算ナカラシコトヲ努メツ  
、アリ

(2)

最高統帥ニ関スル件  
獨逸參謀本部及之ニ類似スル一切ノ機關ヲ廢止スヘキハ  
條約ノ指示セル所ナルヲ以テ獨逸ハ先ツ其名稱ヲ改メ  
最高軍隊機關部トシテ下ニ所要ノ機關ヲ設置セリ而シ  
テ聯合國力條約違反ナリトテ追窮スルヤ形式上應諾シタ  
ルモ實質ニ於テハ今尚隱然之ヲ保有セルモノ、如シ

(3)

不正募兵、幹部養成準備ニ関スル件  
獨逸ハ條約ニ基キ不正募兵、幹部養成、準備ヲ禁スル

16

(4)

青年團等軍事訓練ニ関スル事項  
前記(1)ト相俟テ青年團ノ軍事的活動亦輕視スヘカラサル  
モノアリ大正十五年(一九二六年)十二月聯合國ハ現存  
青年團等ニ對シ軍事上ノ活動ヲ止ムヘキ條件ノ下ニ遂ニ  
共存ヲ認ムルニ至リ爾來獨逸政府ハ在御軍人、及其  
陸軍當局ト陰ニ密接ナル連絡ヲ保持シ直接條約文ニ抵觸  
セザル範圍ニ於テ軍事訓練ニ各種ノ便宜ト補助トヲ與ヘ  
一旦事アルニ際シテハ悉ク立チテ戰線ニ活動シ得ルノ能  
カヲ有セシムルヲ期シ又各團體ハ密カニ動員準備計畫ヲ  
有スト認ムラル

(5)

警察ニ関スル件  
獨逸警察隊ハ軍隊補助機關ニシテ其兵力ハ十萬ヲ限  
度トセラレアルモ實質ニ於テハ二十萬ニ近ク聯合國敵次  
ノ抗議ニ拘ラズ容易ニ之ヲ削減セズ監督委員ハ問題ノ解  
決ヲ見ヌシテ撤退スルノ已ムナキニ至レリ

B-0262



兵艦ニ関スル事項  
 獨逸國軍兵器定數ハ條約第一六四乃至一七二條ニ明記ス  
 ル所ニシテ其兵器、彈藥、軍用材料ノ保有、要塞ニ於テ  
 ル火砲、勤務ニ要スル補助材料、警官等ノ有シ得ル兵器  
 ノ數量ハ細部ニ至ルマテ之ヲ限定シ概テ條約ノ如ク履行  
 シタリ、而シテ聯合國ニ引渡シタル兵器ノ外軍事監督委  
 員カ各種ノ困難ヲ排シテ七年ノ間ニ獲得シタル成果ヲ等  
 カレハ九ノ如シ  
 各種口径ノ火砲身約三萬三千、砲架約二萬三千、迫撃  
 砲約一萬二千、機關銃約八萬八千、携帶兵器約四百五  
 十萬、火砲々彈約四千萬、小銃彈五億發、火藥、爆藥約  
 六方噸等ヲ過剩兵器トシテ破壊或ハ燒却シ、約七千ノ軍  
 用材料製造設備ヲ破壊シ戰時數百ヲ有セシ軍用材料製造  
 工場ハ二十ニ減少シ然カモ其設備、作業人員、作業時  
 間ヲ制限シ以テ其能率ヲシテ僅カニ條約ニ示セル獨逸國  
 軍ノ武器彈藥ヲ補充スルニ足ルヲ限度トセシメ年々製造  
 高ヲモ限定シ又武器彈藥、軍用材料ノ定義ヲ定メ其製造  
 收藏、取引、輸出入等ノ制限ニ関スル法律案ヲ制定セシ  
 メタリ  
 但シ以上得タル成果ハ獨逸國利兵器ヲ悉ク整理セルモノ  
 トハ去フヘカラス殊ニ一九二四年以後ニ於テハ監督委員  
 ハ事實上不時ノ臨檢ヲ爲スコト能ハサリシヲ以テ其後ニ

於ケル各種ノ事實ニ照シ獨逸國内ニ今尚ホ相當ノ隱匿兵  
 器、軍用材料存在セルコト察スルニ難カラズ軍需工業動  
 員ノ準備ニ就テモ亦然リ

三、  
 要塞ニ関スル件ハ條約一八〇、一九五、一九六條ニ  
 要塞ニ関スル事項ハ他ノ問題ニ比スレハ調査容易ナリシ  
 ヲ以テ其成果ハ概テ聯合國憲章ノ如クナルヲ得タリ、  
 即チ「ライン」河東方五十吉米ニ亘ル地帯、並ニ「キール」  
 地帯（一、九五條）ノ工事ハ概テ之ヲ破壊シ又獨逸國カ條  
 約ニ依リ保有シ得ル要塞ニ関シテハ其記録ヲ調製シ現狀  
 ヲ明カナラシメタリ  
 但シ獨逸國ハ條約一八〇及一九六條ノ規定ニ反シ戰後  
 ケリニヒスベルゲン「ロツ」エ「ン」レ「キ」ユ「ス」ト「リ」  
 「ン」レ「キ」ユ「ス」ト「リ」  
 問題ニ関シ聯合國「獨逸國」ト論争ヲ續ケシカ昭和二年  
 一九二七年二月遂ニ之カ整理ニ関スル協定ヲ作為シ續  
 フ實行ニ移レリ

其二 航空

一、フウエルサイユレ條約ハ獨逸陸海軍ニ航空部隊ヲ存置スルコトヲ許サス  
聯合國ヨリ派遣セラレタル航空監督委員(軍事監督委員ノ一部班ニシテ大正十一年(一九二二年)以後航空監督機關 Comité de Garantie de l'aéronautique トナル)ハ大使會議ノ意圖ヲ奉シテ當初獨逸ノ航空事業ヲ極度ニ制限シタリ然ルニ列國ニ於ケル航空機ノ民用化ハ戰後益々發達シタリリ獨逸ノミニ最重ナル航空制限規則ヲ存置スルコトハ世界對空文化ノ進運ヲ妨ケルノ結果ヲ生スルニ至リ茲ニ各國間ニ乏カ緩和手段ヲ講セントスルノ意向發生シ一方獨逸ハフ口カールノ條約ノ精神ヲ利用シテ各方面ニ對シ有利ナル新解決ヲ得ントシ大正十四、五年ニ亘リ航空制限規定ノ撤廢ヲ聯合國側ニ要求セリ

二、一九二六年航空議定書ノ要旨  
前條ノ結果聯合國ハ新ニ獨逸政府ト數次ノ交渉ヲ遂ケ大正十五年巴里ニ於テ左記要旨ノ議定書ヲ作成セリ

(1) 航空機ノ製造及輸入ニ関シ

飛行機ニ速カニ軍用ニ轉換シ得ル如キ裝置ヲ禁スルコト  
技術上新式驅逐機ノ性質ヲ有スルモノ、製造及輸入ハ交通省ノ許可ヲ要ス  
無標縱者飛行機ヲ禁スルコト

(2) 操縱者養成ニ関シ

軍用ヲ目的トシ若ハ其性質ヲ有スル操縱者ノ教育指導ヲ禁スルコト  
軍人軍屬ニハ公的ニハ操縱ヲ禁ス、個人的ニ出願スルモノハ國防省カ金額時間等ニ便宜ヲ與ヘサル條件ノ下ニ充記除外例ヲ設ク

(a) 軍人軍屬ニ前記條件ノ下ニ三十六人大ケニ除外の許可ヲ與フルコトヲ得、但シ本人員數ハ一九二六年一月一日以降毎年六人トシ六年ノ終リニアラハレハ最大數ニ達シ得サル如クセリ而シテ一度此ノ最大數ニ達スレハ年々三人宛新々ニ養成シ得ルコトハス

(b) 右ノ外一九二六年四月一日以前交附サレタル操縱免狀ヲ有スルモノハ最大數三十六名迄操縱ヲ繼續シ得ル

航空警官ハ商用航空監督ニ必要ナル知識ヲ有スル必要ヲル條件ノ下ニ五〇名大許可ス、但シ四十八才ニ達セサレハ補充シ得ス、  
一般操縱者ニ對シテハ制限ヲ附セサルモ其ノ人名職業性

新 練習開始及終了年月日等ハ登錄セシムルコト

(1) 飛行及飛行場ニ関シ

一般に獨逸國内飛行ニハ觸レサルモ中立地帯及占領地帯ニ  
關シテハ如ク制限ス

(a) 萊因占領地帯飛行ニ關シ航空ニ關スル獨逸ノ立法及

行政上ノ諸規則ハ占領地帯ニ於テ實行シ得、但シ各高等

司令官部ハ之カ審査及適用ノ權限ヲ有スルコト

着陸場ニ關シ本國領土ニ於ケル民間航空ニ利用シ得ハ

キ着陸場問題ニ關スル要本アリタル時ハ最高司令部ハ

獨逸州政廳ト交渉決定スルモトス

右ハ占領軍撤退後ニマリテハ下記(b)ニ據ル、但シ前記協

定ノ結果使用セラル、飛行場ハ引續キ利用シ得

(b) 中立地帯(萊因占領地帯ヲ除ク)飛行ニ關シ獨逸一

般國内トシテ自由ニ飛行シ得

航空港及假着陸場(航空港四ヶケルン附近ニ、フラン

クフルト附近ニ)及假着陸場(獨逸ノ隨意)十二ヲ設

置スルコトヲ得、但シ設備ニ制限アリ

(2) 航空機格納庫ニ關シ  
聯合國ハ全部獨逸政府ニ還付ス

(3) 奨励金ニ關シ

左記ニ關シテハ奨励金ヲ與ヘサルコト

ヲスホトシテ航空ニ關スル一切ノモノ

商業航空及之ニ關スル工場以外ノ航空關係

而シテ商業航空及之ニ關スル工場ニ對シテモ其ノ基準狀

態維持以上ニ與ヘサルコト

(4) 監督權ニ關シ  
獨逸政府自ラ行フコトナレリ

(5) 調査權ニ關シ  
若シ聯合國ノ一國カ獨逸政府ノ實施カ不充分ナリト認

ル時ハ隨時調査スルコトヲ得、而シテ之ニ關シテハ平

和條約第百十三條ヲ適用シ得

三、上記議定書制定ニ伴ヒ聯合國ハ大正十五年對獨航空監視

機關ヲ廢止シ爾後之ニ關スル業務ハ直接大使會議ニ於テ

管掌シ必要ニ應ジテ軍事委員會ニ諮問スルコトナレリ、

一方獨逸ノ航空事業ハ其後益々發達シ其政府ハ國際航空

條約(大正九年制定)加入ニ關スル他國ノ勸誘ヲ利用シ

テ交換的ニ一層ヲヅエルカイニ條約レヲ緩和セシメント

シ逐年努力シマ、アリ

第二款 對埃國

一、埃國ニ於ケル陸軍及航空條項ノ履行ハ獨逸同様にカサレル  
曲折ヲ經タリ其ノ主ナル原因ハ戰後ニ於ケル同國政情ノ不  
安定殊ニ敗政ノ窮乏並獨逸陸軍ト傳統的連絡是ナリ  
昭和三年(一九二八年)同國軍事監督發務整理委員撤退ハ  
但シ本末ノ監督委員ハ大正十三年廢止一ノ前後ニ於ケル陸  
軍及航空條項整理ノ景況ヲ略述セハ次ノ如シ

二、陸軍ノ兵力編制及裝備ニ関スル件(條約三〇乃至三三條)  
埃國陸軍ハ志願兵制度ニ依ル總員三萬ノ軍隊ニ制限セラレ  
獨逸同様に航空部隊ヲ含有スヘカラサル規定ナリ右制度ハ  
監督委員會廢止ノ頃ニ於テ略所定ノ如ク履行セラレタリ  
憲兵 稅關吏、森林看守、警官等ノ人員ハ獨逸ニ對スルト  
略同様一九一三年ニ於ケル數ヲ基準トシ其後ノ人口増加ニ  
應ズル補足ヲ加ヘ得ル規定ナル處其履行ニ至リテハ必スシ  
モ嚴格ヲラサレモ一アリ例ハ一九二七年七月八日維納市ノ騷  
擾ニ依リ一旦解散セルモ同市ハ更ニ之ニ代ルハキ一組  
議ニ依リ一旦解散セルモ同市ハ更ニ之ニ代ルハキ一組

三、募兵及軍事教育(一三五、一三六條)  
埃國政府ハ其軍縮ニ方リ舊將校中條約上新軍ノ現役幹部ト  
ナスヘカラサル者ヲ隱ニ存置シ(Auxiliary Reserve)之ニ正規將校  
ニ準スル待遇ト職務トヲ與ヘ戰時ニ於ケル幹部補足ヲ容易  
トラシメントスルモノ、如ク聯合國ハ數次埃國政府ニ對シ  
テ事態ノ闡明ヲ要求セルモ其要ヲ得ス

四、學校 教育機關其他ノ團體及會合(一三七一、一三八條)  
軍部以外ノ諸團體カ軍事教育ニ參加スルコトハ條約ノ禁ス  
ル所ニシテ埃國ハ昭和二年四月ニ關シ聯合國側ト協商ノ  
上法令ヲ發布セシモ事實上絕對ニ此種行為ヲ防遏シ得サル  
ハ華口自然ノ勢タルヘシ

五、兵器彈藥材料及築城(一三九乃至一四五條)  
獨逸刺兵器ノ處分ハ少クモ表面上ニ於テ解決セラレタリト雖

モ隱匿兵器尚相當多類ナル見込ニシテ其發見セラレシコト亦一再ナラス

條約ニ基テ軍需工業制限ハ未タ完全ニ履行セラレズ大正十五年夏至軍需監督發務整理委員ハ塙國ノ主ナル公私工場十四箇ノ臨檢ヲ行ヒ豫テ處分セラレアルヘキ造兵機械約七千箇中約三千九百尚ホ現存セルコトヲ發見シ數次折衝ノ後新ニ約二千八百ノ處分ヲ要求シタリ

右ノ實行ハ其後遲々トシテ進マス又フガロズミツレルコトアリユモ一レコウオレルスドルト等國營製造兵廠ノ縮小亦同様ニシテ上記發務整理委員ハ此等ノ完了ヲ見スシテ昭和三年一月撤廢セラレタリ

又條約第一三三條ニ據レハ塙國陸軍ノ兵器彈藥及材料ハ國營タル唯一箇ノ工廠ニ於テノミ製造セラレルヘキ規定ナラシムルニ記發務整理委員撤廢ノ際ニハ僅ニ步兵彈藥工場カ作業ヲ開始シタルノミニシテ其他ノ大部即チ火器、砲彈、爆藥工場等ハ殆ント前途不明ノ狀態ニ在リタリ

策城ノ整理ハ略ホ實行セラレ又兵器輸入、外國ノ爲ニスル塙國內ノ兵器製造及輸出禁止ニ就テハ昭和三年一月所要ノ法令發布セラレタリ

六、航空ニ関シテハ特ニ記スヘキコトナシ

七、聯合國ハ以上ノ未解決事項ニ関シ發務整理委員撤廢後更ニ塙國ニ抗議シ昭和三年八月維納ニ英、佛、伊三國ノ軍事専門委員ヲ設置シテ履行狀況ノ調査及塙政府トノ直接交渉ニ任セシメ

聯合國ハ以上ノ未解決事項ニ関シ發務整理委員撤廢後更ニ塙國ニ抗議シ昭和三年八月維納ニ英、佛、伊三國ノ軍事専門委員ヲ設置シテ履行狀況ノ調査及塙政府トノ直接交渉ニ任セシメ

第三款 對匈國

一、匈國ニ對スル條約中陸軍及航空條項ノ要求程度ハ數字上其他若干ノ事項ヲ除クノ外塙國ニ對スルモノト同様ナル處之ヲ履行ハ塙國ニ比シ大伴順調ニ進捗セリ

二、然レトモ陸軍兵員ノ徵集手段、將校ノ補充法及國營唯一造兵廠ノ開設ニ就テハ當初ノ間條約ノ規定通り實行セラレサリシヲ以テ大正十四年十二月聯合國ハ匈國ニ對シ此等諸件ヲ矯正ヲ求メタルニ同國政府ハ事情ノ已ヲ得サル點ヲ訴ヘテ緩和ヲ要求スル處テ數次折衝ノ結果翌年末西者ノ間ニ一ノ協定案ヲ得匈國ハ直ニ之カ實行ニ着手セリ其要旨次ノ如シ

(1) 陸軍兵員ノ徵集法(條約一〇三條) 從來舊ニ存續シヤリシ一部ノ徵兵制度ヲ廢棄シ條約ノ要

求通り專ラ志願兵制ニ據リ所定ノ兵員ヲ充足スルコト、

但シ當時ノ志願兵員著シク不足ナリシ爲全陸軍ノ充實

四 將校ノ補充法 (一〇九、一一條)

將校ノ補充ハ新制度ノ士官學校ノミニ由ルヘク、  
昭和二一年一九月(二十一年)陸軍士官學校生徒召募規則  
舊制ニ於ケル豫備、退職將校等ノ復職廢止ニ關スル法令  
ヲ發布セリ。

四 國管唯一造兵廠ノ開設 (一〇五條)

及作業開始ヲ急キ昭和二年五月略之カ竣成ヲ見タリ

三、

以上ノ如ク、  
督委員廢止ノ際ニ於テ概テ解決シ然ラザルモ、  
通リ實行ノ緒ニ就キタルヲ以テ同委員會ハ五月十六日  
ヲ終ヘテ同國ヲ撤退セリ。

第四款 對勃國

一、

勃國ニ於ケル陸軍及航空條項ノ履行中兵器ノ處分及軍需工  
業設備ノ制限等ニ就テハ同國ノ國情上大ナル問題ヲ惹起セ  
シヨト勘カリシモ、  
國境監視員並憲兵ノ制度ニ就テハ軍事監督委員撤廢前ノ總  
檢査ニ於テ相當ノ條約違反ヲ認メ、  
一五年ニ及同十五年ノ一回ニ亘リ之カ矯正ニ關シ勃國ニ共同  
通牒ヲ發シタリ。

二、

爾後軍事監督職務整理委員ハ更ニ上記諸件ノ接證ヲ行ヒ其  
結果探知セル處尤ノ如シ。

四 軍隊ノ編制ニ關スル件 (條約六六、乃至六八及七〇條)

從來各步兵聯隊ノ本部ニハ、  
各兵種ノ幕僚アリテ勃國政府ハ之ヲ衛戩勤務上已ヲ得サ  
ル施設ナリト主張シテ、  
議ニ依リ勃國ハ所要ノ命令ヲ發布シテ該本部ノ權能ヲ限  
定シ兩者ノ妥協ヲ見ルニ至レリ。  
又舊要塞砲兵隊ヲ野戰砲兵隊ニ改編シテ、  
議セル結果政府ノ命令ヲ以テ其性能ヲ要塞勤務ノミニ局  
限シタリ然レトモ事實上嚴密ナル矯正ハ困難ナリ。

B-0262

(四) 勤員準備ニ関スル件(六七、六八條)  
聯隊内補充隊(六七條第三項)ノ編制ハ從來恰モ規定外ニ  
一大隊ヲ増設シタル如キ形式ナリシカ陸軍省令ノ發布ニ  
依リ之ヲ局限セリ但シ其實質ハトラスシモ聯合國ノ要求ニ  
完全合致スルモノト認メ難シ

(ハ) 陸軍兵員ノ徵募法(六五、七二條)  
志願兵ノ徵募ニ関スル法令ハ夙ニ發布セラレタリト雖モ  
勅國ノ憲法ニハ義務兵役制ノ規定アリ同國政府ハ之ヲ改  
正ニハ國民議會ノ召集ヲ必要トシ且右ノ召集ハ當時ノ政  
情上至難ナリト稱シテ憲法改正ノ時日ヲ遷延シタリ  
隨テ昭和二年監督委員撤廢ノ際ニハ尚ホ徵兵及志願兵ヲ  
混有セリ

(ロ) 國境監視員及憲兵等ノ制度(六九、七一及七三條)  
本組織ハ從來軍隊ニ準スル制度ナリシヲ抗議ノ結果法令  
ヲ以テ軍隊ト區別シ服裝、任務、命令系統、教育等總テ  
別箇ノモノトセリ

三、 上記矯正事項ハ憲法改正ノ外少クモ形式上聯合國例ノ要求  
ニ近キ一方兵器彈藥材料、築城及航空ニ関スル處分亦大  
ナル障碍ナク履行セラレタリ以テ軍事監督、殘務整理委員ハ

30. 昭和二年(一九二七年)七月勅國ヨリ撤退セリ、

B-0262

第四節 國境劃定

一、平和條約ニ基キ舊敵國ト隣接諸國トノ國境線ヲ現地ニ於テ劃定スル爲大使會議ノ指定セル國境劃定委員會九ノ如シ  
 「ガール」地方ノ爲一  
 獨國對下、白、波、チエツク、各國ノ爲各一  
 獨國對チエツク、伊、塞、匈、各國ノ爲各一  
 波國ト「エツク」間一  
 匈國對「エツク」羅、塞國ノ爲各一  
 勃國對塞、希國ノ爲各一  
 「アルバニア」爲一  
 右ノ外「アルバニア」ヲ除ク、外ハ帝國陸軍委員悉ク之ニ參與セリ

二、帝國ハ大正十一年（一九一二年）十一月二十五日ノ大使會議ニ於テ國外事情ニ基キ近ク我カ委員ヲ廢止スヘキコトヲ提言シテ同會議ノ同意ヲ得翌年三月十五日之ヲ一般ニ聲明シテ委員ヲ撤退シ其後ニ於ケル國境劃定ノ諸問題ニ関シテハ他列國委員ノ決議ヲ事後承認スルコト、セリ

31 三、國境劃定業務ノ成果ニ就テハ事帝國トノ關係極メテ薄ク茲

32

ニ改メテ記述スルノ要ナシト認ムルヲ以テ先年撤退時ニ於ケル當該各委員提出ノ報告ニ讓ル



第五章 萊因占領軍

一、 聯合國ノ萊因地方占領ハ直接我カ委員ノ業務ニ關係ナカリシモ參考トシテ本章ニ其沿革ヲ掲ケ且附録トシテ同軍ノ政務ニ關スル事項ヲ記述ス

二、 大正七年(一九一八年)十一月西方戰場ニ於ケル聯合國軍ハ休戰條約ニ基キテ萊因河沿岸ノ地方ヲ占領シ軍政ヲ施行セリ

A. 萊因河右岸ニ於ケル獨逸國領土  
B. 同河右岸ニ於ケルコロニーニユレフゴブレンツレマ  
イアンズレ及フケールレヘフストラスブルレノ橋

休戰條約ノ締結ヨリ翌年フヴエルサイユレ條約ノ實施ニ至ル迄ノ期間、同地方ニ於ケル政務ハ一切聯合國軍總司令官フオツシユレ元帥ノ監督下ニ置カレ獨逸官憲ハ同官ノ認可ナキ限り同地方ノ統治ニ關シ何等ノ措置ヲ執ル能ハサル状態ニ在リタリ

三、 大正九年一月フヴエルサイユレ條約ノ實施ト并ニ前記地方ハ獨逸國ノ主權下ニ復帰シ政務ニ關スル聯合國總司令官ノ

監督權消滅セリ  
然レトモ同地方ノ占領ハ條約第四ニハ條ノ規定ニ依リ十五年間繼續セラルコト、成リシヲ以テ關係國(英、佛、白米)ハ茲ニ獨逸政府ト占領ニ關スル特殊ノ協約ヲ行ヒ之ニ基キ右關係國政府ヲ代表スヘキ新ナル政務機關(萊因高等委員會)ヲフゴブレンツレニ創設シ占領軍對獨逸官憲及住民ノ間ニ於ケル諸般ノ政務ヲ管掌セシメタリ(本報告附録第一參照)  
獨逸政府モ亦其代表機關ヲ同地ニ設置セリ

四、 爾後ニ於ケル萊因占領關係ノ主要ナル事象次ノ如シ

- A. 米國軍ノ脱退 (大正十二年一月)  
米國ハフヴエルサイユレ條約ニ批准セズ隨テ占領ニ關スル前記協約亦米國ニ適用セラレズンテ終レリ
- B. 佛白國軍ノフルル地方占領  
佛白國ハ大正十年及十二年新ニフルル地方ニ出兵シ所謂同地方ノ經濟占領ヲ行ヘリ但シ此行動ハフヴエルサイユレ條約ノ規定ニ據リシモノニ非ス  
談出兵部隊ハ大正十四年七月迄ニ悉ク撤退セリ
- C. フロカールノ條約ノ萊因占領トノ關係  
大正十四年フロカールノ條約ノ成立ハ獨逸ノ國際的地位復舊ニ大ナル影響ヲ及ホシ萊因占領ノ條件ニ就テモ

相當ノ緩和ヲ促セリ  
即チ占領軍ノ兵力及政務機關ノ組織ハ同條約ノ成立後  
一段縮小セラレ地方官民ノ權利制限ニ関スル規定ハ本  
報告附録第一参照ノ適用亦從來ニ比シ著シク寛大ト  
成リタリ

D. 占領軍ノ撤退

コウエルカイユレ條約第四ニ九條ニ據レハ独逸カ同條  
約履行ノ誠實ナル場合ニ於テハ聯合國ハ五年十年  
十五年ノ三次ニ亘リテ占領地域ヲ縮小スルノ規定ニシ  
テ其第一次タルコロニユレ橋頭地域及其對岸地方  
ヨリスル撤兵ハ當時独逸ノ條約履行不十分ナル理由  
ヲ以テ約一ヶ年延期ノ後大正十五(一九二六)年一月  
ニ至リ實行セラレタリ  
第二次タルコブレソ橋頭及其對岸地方並  
クスラシヤバル地方ノ撤兵ハ昭和四年八月海牙賠償  
會議ノ直後ヨリ同年十一月ニ亘リ繰上ケ實施セラレ同  
時ニ英軍ハ第三次地帯ノ一部タルコウイスバードン  
ヲ撤退セリ茲ニ於テ爾後占領軍ハ佛國軍隊及萊茵高等  
委員會ノミトナリ萊茵高等委員會ハコブレソヨ  
リコウイスバードンニ終リタリ  
第三次タル總撤兵ハ前記海牙會議ニ於ケル關係國間ノ  
取極ニ基キ佛獨兩國ノコマンケル案批准後ハヶ月以内

達クモ昭和五年六月未迄ニ繰上ケ實行スヘク規定セラ  
レ右批准ハ既ニ終リタルヲ以テ撤兵モ亦豫定期日迄ニ  
完了スル筈ナリ

五. 占領軍ニ要スル諸經費ハ條約ニ基キ独逸側ノ負擔セル所ニ  
シテ當初ハ一般賠償ト別途ニ之ヲ支拂ヒヤリシカドリス  
案採用後其規定ニ據リ聯合國ハ独逸ヨリ受ケル賠償金ノ總  
額ヨリ占領軍ニ要スル費用ヲ差引キ支辨シタリ

六. 上記ノ如ク昭和五年占領軍ノ完全ナル撤退ト共ニ該地方ハ  
聯合國ノ羈絆ヲ脱セルモ條約上萊茵河右岸五十吉米ノ地帯  
ト同様所謂武装解除地帯トシテ獨逸國軍隊ノ駐屯ノ進入ノ防  
禦諸施設共ニ永久之ヲ禁止セラレ  
ハコウエルカイユレ條約第四ニ乃至四四條)

第二篇 現況

第一章 業務實施ノ要領

一、陸軍關係條約實施機關トシテ在巴里舊聯合國大使會議及軍事委員會ノ存續シアルコトハ前篇第一章ニ於テ之ヲ述ヘタリ  
舊各敵國ニハ今ヤ何等陸軍關係ノ監督機關ナク此等諸國ニ於ケル條約陸軍條項ノ實施調査及之ニ對スル矯正要求ノ立案ハ大使會議及軍事委員會自ラ之ニ膺リ又航空ニ関シテハ主トシテ大使會議ニ於テ直接關係國政府ト折衝ス

二、軍事委員會ノ列國委員ハ佛國ノ外目下孰レモ在巴里當該國大使館附陸軍武官之ヲ兼任シ佛國ハ同國首席委員ヲバラケ  
エシ中將以下五名ノ將校ヲ以テ本委員會ノ本部一事務局ヲ組織ス

三、大使會議、軍事委員會共ニ近來會同ノ回数ヲ減シ多クハ文書照會ノ形式ニ依リ各種案件ヲ審議決定シツ、アリ  
大使會議ノ議事録及決議録ハ在佛帝國大使館ニ保管セラレ  
アルコト既述ノ如ク軍事委員會ニ屬スルモノハ將來同會解

散ノ際我々大使館附武官ヨリ一括シテ關係上司ニ提出セラ  
ルヘシ

第二章 軍事監督委員撤廢後ニ於ケル進況

第一節 獨 國

昭和二一年對獨軍事監督委員ノ撤廢以來聯合國側ノ條約實施  
陸軍關係諸機關ハ銳意發務ノ促進ニ努メ屢々獨國政府ニ督  
促シ若ハ違犯行為ニ對スル矯正ノ要求ヲ發セシモ其履行違  
々トシテ進マサリシカ昭和二四年賠償及萊因占領軍撤退ノ公  
式交渉其緒ニ就クニ及ヒ陸軍關係諸問題ニ就テモ亦逐次互  
讓的協定成立シ少クモ形式上ニ於テ一段ノ進況ヲ呈シタリ  
但シ實質上ニ於テハ却テ獨逸側ノ為有利トナリタル事項尠  
シトセス

二、陸軍ノ兵力編制ニ關スル件

陸軍ノ兵力編制ニ關スル件  
總兵力及各部隊ノ編制ハ概ネ條約所定ノ如ク保持セラレア  
リ其詳細ニ關シテハ昭和四年八月二十一日陸講第四〇七号  
ヲ以テ我カ參謀本部ニ報告シ置ケリ  
然レトモ陸軍當局カ統帥機關及新式兵器ノ裝備等ヲ現代軍  
ノ要求ニ合致セシメントスルノ努力ハ各種ノ徵候ニ照シ歴  
然窺知スルコトヲ得ヘク此傾向ハ逐年増大シツアルカ故  
ニ將來有事ノ際ニ於テハ恐ク列強國軍ニ比シ大ナル遜色ナ  
キ軍隊ヲ整備スルニ至ルナラン

一、二ノ例證ヲ擧ケレハ次ノ如シ

- (1) 參謀本部廢止ニ就テハ前篇ニ記述セシ所ナルカ昨年伯林  
軍事專門委員ノ調査ニ據レハ陸軍省內ニ於テ尚陰然之ニ  
相當スル機關ト有カナル職員トヲ保有シアルモノ、如シ  
戰車毒瓦斯等ノ禁止兵器ニ就テハ編制上之ニ諒當スル部  
隊ヲ設ケザルモ名ヲ此等ニ對スル防禦法ノ教育ニ藉リ演  
習等ノ際假敵部隊中ニ此種兵器ノ模型ヲ運用シ而モ其模  
型ハ年月ヲ逐クテ實物ニ近似シツアリ  
航空機ト軍隊トノ連合演習亦時々發見セラレ  
聯合國側ハ必要ノ都度上記諸件ニ對シテ抗議シツアル  
モ之ヲ嚴密ニ禁止スルコトハ條約上ヨリスルモ又純軍事  
的見地ヨリスルモ蓋シ困難ナリ
- (2) 陸軍大學校ノ存置及參謀將校ノ組織的教育ハ禁止セラレ  
アルモ陸軍當局ハ諒將校採用試驗合格者ヲ各年次毎ニ見  
習ノ名義ヲ以テ若干ノ高等司令部ニ集メ約二年間所要ノ  
教育ヲ行ヒツアルモノ、如シ聯合國側ハ之ニ對シ數次  
抗議スル所アリシモ實質上之ヲ禁制スルノ途ナク遂ニ默  
認ノ形トナレリ
- (3) 退職武官中ノ有力者ヲ偏人等ノ名義ヲ以テ陸軍官衙及軍  
隊中ニ採用ス
- (4) 上記陸軍部內ニ於ケル軍隊實力増進ノ漸進的手段ト相俟テ  
警察隊 國境義勇兵團、青年團等ノ活躍亦頗ル注目ヲ要ス

ル所ナリ後條更ニ之ヲ記述ス

三、

警察隊ニ就テ  
本問題ハ未解決ニシテ現在ニ於ケル重要縣案ノ一ナリ  
獨逸各州警察隊ハ條約ニ基テ取極ニ依リ總人員ヲ十四萬ニ  
制限セラレ且各州ノ警察組織ニ關スル條例、行政上ニ於ケ  
ル右施行規則、警官教育令等ハ夫々發布ニ先テ大使會議ノ  
承認ヲ受ケヘキ旨昭和二年軍事監督委員撤廢、際聯合國政  
府ヨリ獨逸側ニ要求シタリ其後、情況左ノ如シ

四、

昭和三年前半期ノ調査ニ據レハ前記規定外ニ保有セル人  
員ニ萬五千ヲ算シタリ獨逸政府ハ聯合國ノ要求ニ基テ其  
削減ニ著手シ同四年八月大使會議ニ對シ整理完了ヲ報告  
セリ然レトモ其真否甚ク疑シク現ニ同年ノハンブルグ  
警察ニ就テ約四百人ノ定員外者ヲ發見セリ而シテ之カ調  
査ハ目下ノ處各州警察豫算表ノ点檢ニ依ルノ外ナク大使  
會議ハ同年八月協調ノ意味ニ於テ全獨各州ニ代フルニ主  
要七州(普魯西、バイエル、ウサクス、ユルテンベルグ、コ  
「ハッス」)ノ豫算表提示ヲ獨逸側ニ要求シタルモ未ク實  
行セラレス  
前記各州警察ノ外市町村警察ノ人員ニ就テモ未ク整理ノ  
實狀明カナラス

四、警察組織ニ關スル條例

十州ハ既ニ所定ノ手續ヲ經テ該條例ヲ發布シ他ノ五州ノ  
行政上ノ施行規則ニ於テ審査中ナリ(昭和五年一月調)

五、其修正ニ關シ交渉中 細部略ス

昭和四年十一月大使會議ハ本令中軍事的集合教育ニ關ス  
ル若干ノ規定ヲ削除シ軍事專門委員ノ点檢ヲ受ケヘキコ  
トヲ獨逸政府ニ要求セリ又市町村警察ニ就テハ集合教育  
ヲ許容セス

六、昭和五年一月大使會議ハ再ヒ川乃至四ノ各項中成果不明ノ点

ニ關シ少クモ上記主要七州ニ於テ適確ナル報道ヲ提出スヘ  
キ旨獨逸政府ニ督促シ同政府ハ之ニ基キ一月末日若干ノ書  
類並説明ヲ軍事專門委員ニ附典セルモ其内容不備ニシテ右  
諸件ハ今尚未決、儘ナリ  
又警察隊中所定ノ人員ハ軍隊ト同様舊兵管内ニ共同生活ヲ  
ナサシム得ル如ク約定セラレアリ獨逸側ハ此約定ヲ利用擴  
汎シ全ク各個勤勞ニ服スヘキ警吏ヲ七舊兵營ニ集團居住セ  
シメントスル傾向漸次増大シツ、アリ

四、過剩軍用構築物ノ處分  
本問題ハ主要ナル未解決事項ノ一ナリ

條約ニ基テ獨逸陸軍ノ縮小ニ依リ過剩トナリタル軍用諸構  
築物ニ兵營、工場、演習場設備等ハ條約第一六八、一七  
條ノ主旨ニ基テ之ヲ破壊スルカ若ハ軍事以外ノ用途ニ充  
ル如ク改造シテ陸軍以外ノ官省若ハ民間ニ讓渡又ハ賣却ス  
ルキモ、ニシテ軍事監督委員ト獨逸政府トノ間ニ右ノ處分  
ヲ約定セラレタル諸構築物ノ總數ハ二百三十三箇ナリキ  
右ノ實行ハ軍事監督委員撤廢後依然トシテ停滞シ聯合國側  
ハ各種ノ手續ニ依リ之ヲ督促セルト一冉ニ止マラス昭  
和二年八月及同五年一月相互協定ノ結果獨逸政府ハ大使會議  
ニ對シテ左ノ契約ヲナセリ  
 (1) 工廠、演習場等ノ軍事施設ハ再ヒ軍用ニ供フ得セル如ク  
之ヲ改造若ハ破壊シ其土地ヲ處分スルコト  
 (2) 兵營内等ノ共用設備ハ大兵室、炊事場、厩、營庭等ハ  
之ヲ撤廢若ハ改造シテ個人住宅式ニ模様換ヲナスコト  
 (3) 最近一ヶ年一昭和四年度一ノ間ニ處分セル諸軍用構築物ノ  
種類員數ハ前記(1)(2)ノ模様換實行前後ノ圖面ヲ添ヘテ之  
ヲ大使會議ニ筆記提出スルコト但シ病院、事務所、倉庫  
等ハ此限ニ非ス  
 昭和五年一月末日獨逸政府ハ右ノ契約ニ基テ若干ノ圖表ヲ  
提出セシカ其内容頗ル不備ナリシ爲更ニ大使會議ヨリ抗議  
ノ結果三月末日七百五十六箇ノ構築物ニ就テ整理報告提出  
セラレタリ

五、

右ノ整理果シテ實行セラレタルモトモハ條約實施ノ當初  
ヨリ本年迄ニ整理ヲ終レルモト通計千四百十六箇ト成リ前  
記總豫定數ノ約三分二ニ達スル次第ナルモ過去ノ實績ニ  
鑑ミ一昭和二年ニハ八十四箇同三年ニハ六十一箇一其真否  
ト疑ハシク又上記報告書ニ記載セル處分ノ方法手段不當  
ト認メラル、モ、劃カラス例ハ  
 (1) 陸軍ノ兵員從來ト變化ナキ筈ニ拘ラス新ニ二十四箇ノ過  
剩兵營ヲ陸軍省ノ所管ニ移セルコト  
 (2) 警察隊ニ新ニ百六十五箇ノ過剩兵營ヲ配當セルコト  
 (3) 上記以外ノモノニ讓渡若ハ賣却セル兵營ニ就テモ改築ノ  
實況(前記(4)ノ不明瞭ナリ)  
 (4) 演習場、飛行場、射擊場等ヲ新ニ陸軍若ハ警察隊ノ所管  
ニ移セルモノ若干アリテ其理由不明ナリ  
 改築處分ノ實況不明瞭ナルモノ多シ  
 軍事委員會ハ上記ノ報告誠意ナキモノト認メ本年五月大使  
會議ニ向ヒ再ヒ獨逸政府ニ抗議ノ必要アルコトヲ具申セリ

五、  
 鐵道軍事供用ノ制限  
 本問題ハ少クモ形式上略解決セリ  
 條約第四三及第一七八條ノ趣旨ニ基キ鐵道ノ軍事供用ハ著  
 シク制限セラレ就中從來問題トナリツ、アル主要事項次ノ  
 如シ

(1) 萊因地方鐵道軍事設備ノ撤發及増築制限

本節(九)ノ参照  
歐洲戰役間獨逸陸軍カ軍事輸送ノ爲客貨車内ニ施セル設備ヲ撤發スルコトニ就テハ數年來其實行ヲ督促シツ、アリシカ昭和四年九月獨逸政府ハ大使會議ニ對シ作業終了ノ旨ヲ通告シ來レリ其真否疑シキ点アルモ一々之ヲ点檢スルコト困難ナル爲大使會議ハ後日ノ證憑トシテ最近一ケ年間ニ整理セル客貨車ノ番号ヲ談通告書ニ添記スヘキコトヲ獨逸政府ニ要求シ本問題ヲ打切レリ

(11) 戰時動員及集中輸送等ニ方リ鐵道ヲ軍事ニ供用スル爲ノ規則書ハ前(10)同種ノ趣旨ニ基キ其發布ニ先テ内容ニ關シテ大使會議ノ承認ヲ得ヘキ約定ナル處數次督促ノ結果昭和四年九月獨逸政府ノ提出セルモノハ一面動員輸送等ニ關聯スル條項ヲ含ムト共ニ他面軍事監督委員ノ指定セル條件ニ合セサル点アリ又其内容軍事供用規則ノ全部ヲ開示セルモノト認メラレヌ  
大使會議ハ昭和五年一月十八日ノ決議ヲ以テ獨逸政府ニ修正此再提出ヲ要求セリ

六、不正募兵及各種團體ノ軍事訓練ニ就テ  
(1) 條約違反ノ募兵

本件ニ就テハ新ニ大規模ナル事實ヲ發見セルコトナキモ各種ノ情報ヲ綜合スルニ軍隊、警察隊其他ノ集團内ニ於テ陰カニ規定外ノ人員、幹部要員等ヲ保有シアル徵候アリ  
コダレンツシエツツレ(前篇第四章第三節第一款其一ノ一)ノ參照ニ就テハ其後確タル情報ヲ得ス

各種團體ノ軍事訓練ニ就テ  
本件ハ條約ニ基キ軍備縮小ノ一反動タルト共ニ世界各國ニ於ケル現代ノ趨勢タルヲ以テ獨り獨逸ニ對シテノミ極端ニ之ヲ禁止スルコト困難ナリ  
軍事の特色ヲ有スル團體中最モ著明ナルモノハ鋼塊青年團(ハスタルヘルム)ニシテ大正九年其創立以來逐年其勢力擴張シ當初ハ戰軍人ヲ主体トセシモ漸次一般青年ヲ包攝シ目下ノ團員少クモ百萬ヲ算ストイフ而シテ昭和三三年國民黨領袖ヲヒユゲンバルケレ氏之カ總裁トナルニ及ヒ政治的色彩ヲ和ヘタリト稱セラル  
團員ニハ陸軍ニ於ケル現役豫備役ニ準スル区分ヲ採用シ歴戰六ヶ月以上ヲ經タル者ノ外期ヲ定メテ之ヲ召集訓練ス兵器ノ携帶ハ之ヲ許サレサルモ應召者ハ軍服ニ類スル制服及器具ヲ著ケ團體トシテノ教練ヲ實施スルコト屢々ナリ  
佛國側ノ根據アル判斷ニ依レハ此種團員中有事ノ際直ニ

B-0262

軍人トシテ活動シ得ヘキ者十五萬乃至二十萬ナリト  
聯合國側殊ニ佛白兩國ハ獨逸ニ於ケル各種團体ノ軍事的  
活動ヲ危險視スルコト夥シクフタルヘルムニ就テハ  
少クモ其採用シツ、アル訓練規則書ニ就テ所要ノ制限ヲ  
加ヘンコトヲ希望シアルモ未タ列國ノ合意ヲ得ルニ至ラ  
ス

七

兵器ニ関スル件  
本件ハ形式上解決シアルモ頻々違反行為ヲ發見ス  
獨逸陸軍ノ保有シ得ヘキ兵器ノ品種類ノ制限、過剩兵器  
ノ處分及廃棄、兵器製造機關ノ縮小、外國ノ爲ニスル兵器  
ノ製造及輸出入禁止ノ要領ニ就テハ前篇第四章第三節第一  
款其一ノニニ於テ之ヲ述ヘタリ  
軍事監督委員撤廢以後ニ於テハ實地臨檢ノ手段闕如セルヲ  
以テ右諸件履行ノ現況審ナラス主トシテ條約實施機關以外  
ノモノヨリ收得スル情報ヲ綜合シテ違反事項ヲ檢知シ得ル  
状態ナリ  
隱匿兵器及禁制兵器ノ製造若ハ收藏ハ頻々發見セラレ外國  
ニ對スル兵器軍用材料ノ輸出モ亦獨逸國法ノ禁スル所一昭  
和二年發布ナルニ拘ラス其發覺一再ニ止マラス大使會談  
ハ其都度該事實ヲ審査シ自ラ若ハ駐獨聯合國大使會談  
所要ノ矯正ヲ要求シツ、アルモ此等事實ハ恐ラク今後益々

八

要塞ニ関スル件  
概テ解決セリ 即チ東方國境其他國內ノ諸要塞及萊因占領  
軍ノ撤退迄ニ破壞スヘキ同地方ノ永久防備ハ引續キ聯合國  
側ノ要求ニ基キ整理セラレ就中從來確タル取極ナカリシ  
ケールレ(ポスト)ラスパルル對岸一橋頭堡ニ就テハ昭和五年  
一月新ニ一議定書(略ス)ヲ交換シ獨逸政府ハ之ニ基キ其  
防備廢棄ヲ實行セリ

九

萊因地方ノ武裝解除  
萊因占領軍ノ撤退ニ就テハ前篇第五章ニ又同地方要塞ノ廢  
棄處分ニ就テハ本節以ニ之ヲ述ヘタリ右ノ外同地方ニ関ス  
ル主要ナル問題次ノ如シ  
川 萊因諸鐵道ノ整理  
萊因地方ノ鐵道線及其附屬設備ニシテ戰時軍用ニ供スル  
コト目的トシテ之ヲ構築セラレタルモ、ハ悉ク之カ破壞  
處分ヲ行フヘク又同地方ニ於テ新ニ線路若クハ術工物ヲ  
増築セントスル場合ニハ實行前聯合國ノ認可ヲ受クヘキ

B-0262



規約アリ一條約四三條及一六八條ノ適用ニ  
而シテ破壊處分ヲ行フヘキ箇所及程度ニ就テハ大正十  
一年軍事委員會ニ於テ詳細ナル計畫ヲ定メ大使會議ヨリ之  
ヲ獨逸政府ニ要求セシカ獨逸側ハ殆ント之ヲ履行セサル  
ノミナラス地方産業交通經濟上ノ必要ヲ理由トシテ頻次  
上ニ記要求ノ緩和此新施設ノ實施ヲ要請シ本問題ハ久シク  
懸案トセラレツ、アリタリ  
昭和四年七月ニ至リ漸ク兩者ノ間ニ互讓的協定成立シ左  
記條件ノ下二十年來ノ交渉ヲ打切ルト、成リ續テ之ヲ  
公表シ且國際聯盟ノ記録ニ掲上シ獨逸政府ハ右協定ノ實  
行ニ著手セリ

協定ノ要旨

獨逸政府ハ今後十二ヶ年ノ間「マクサウレ」(「カールスルーエ」  
西方萊茵河畔)ヨリ和蘭國境ニ至ル間ニ於テ萊茵河ヲ横  
断スル鐵道線路數ヲ増加セサルヘキコトヲ納ス  
但シ「マクサウレ」及「コロニー」北側地ニ鐵橋ハ此限ニ非ス、  
獨逸政府ハ前第一項ノ期間左記兩線ノ複々線工事ヲ中止  
ス

1) 「ゲュレン」-「コロニー」線  
2) 「エランゲル」-「コロニー」線  
獨逸政府ハ一九一四年乃至一九一八年ノ戰役ニ方リ軍用ノ

爲増築セル線路及擴張セル術工物中大使會議ノ指定スル  
約二十件ノ設備ヲ廢棄若シクハ要スル程度ニ縮小ス  
大使會議ハ從來獨逸政府ノ要請セル鐵道増築工事中地方  
産業交通上算至當ト認イルモ、約七件ノ實施ヲ認客ス

以上

回、萊茵地方警察隊ノ配置、  
萊茵占領軍駐屯地帯ニハ從來獨逸軍隊並警察隊ノ進入ヲ  
許サスヘ市町村警察ヲ除ク、占領軍撤退後ニ於テハ軍隊  
ハ條約第四三條ニ據リ依然ニカ配置、進入ヲ禁止セラレ  
、モ警察隊ニ就テハ一定ノ人員及配置ヲ容認ス  
然ルニ聯合國側ニ於テハ警察隊ヲ「武裝兵力」(條約用語)  
ノ一種ト解釋シ之カ一定數ノ配置ニ就テハ異議ナキモ増  
員ヲ派遣セントスル場合ニハ獨逸政府ヨリ通告ヲ發スヘ  
キコトヲ要求セリ同政府ハ之ト見解ヲ異ニシ相互論爭ス  
ル所アリシカ昭和五年一月ニ至リ右増員派遣萊茵全州ニ  
對シニ百人ニ達スル場合ヲ限界トシテ協定成立シタリ  
又同地方ニ配置セラレヘキ警察隊ノ内容(人員裝備等)  
ニ關シ同年三月獨逸政府ノ提示セル計畫ハ大伴大使會議  
ニ認可スル所トナラン  
萊茵地方軍用構築物ノ處分  
本問題ハ獨逸國內他地方ト同様、同政府ヨリ大使會議ニ

提示セル邊分計畫ノ内容不備ニシテ今尚折衝中ナリ

十、軍事専門委員ノ廢止

軍事監督委員ノ撤廢ニ當リ大使會議ハ伯林莫、佛、伊、白各大使館ニ軍事専門委員各一名ヲ設置シ陸軍條項中ノ未解決問題ノ履行ヲ審査シ且其結果ノ檢證ニ任セシメタルコト既述ノ如クナレカ昭和五年一月大使會議ト獨逸政府トノ間ニ陸軍條項殘務整理ノ協定成立スルト共ニ前記專門委員ノ業務打切ニ決シ同委員ハ同日未日ヲ以テ獨逸側トノ交渉ヲ断テ同年四月一日伯林ヲ撤退セリ

第二款 航空ニ就テ

一、前篇第四章第三節第一款其ニ於テ記述セル如ク聯合國ハ「ワウエルサイエンス」條約ニ基クテ獨逸航空ノ制限ヲ緩和シ世界航空ノ進歩ニ貢獻セシムル意味ニ於テ大正十五年獨逸政府ト新ニ一ノ議定書ヲ交換セリ

二、其後獨逸ノ航空事業益々發達スルニ伴ヒ同政府ハ各種ノ機會ヲ利用シテ更ニ上記制限ノ修正ヲ要求シツ、其最近ニ於ケル事象左ノ如シ

(1) 昭和四年六月左記四條件ノ改訂ヲ要請ス

- (1) 萊因占領地帶上ノ航空ヲ一層自由ナラシムルコト
  - (2) 「スポーツ」飛行補助金附與ニ對スル禁止ヲ撤廢スルコト
  - (3) 無操縦者飛行機ノ禁止ヲ撤廢スルコト
  - (4) 警察ニ飛行機ノ備付ヲ認可スルコト
  - (5) 軍事委員會ハ「」ニ對シテハ飛行場ノ著陸場ノ數ヲ既定ノモノ（飛行場四、著陸場十二）ヨリ増加セサル條件ノ下ニ萊因高等委員會ニ於テ航空制限ヲ適當ニ緩和スヘク又
  - (6) (3)、(4)ニ對シテハ之ヲ認可セサルヲ至當ト認メ且旨大使會議ニ具申セリ
  - (7) 萊因高等委員會ハ之ニ基キ同地方航空規定ノ一部ヲ改定セリ（略ス）
  - (8) 昭和五年一月再ヒ上記(2)、(3)、(4)ヲ要求ス
- 軍事委員會ハ本問題ノ審議力其權外ナルヲ認メテ大使會議ニ移シ大使會議ハ列國ノ代表ノ意見ヲ求メタル後未ク認可ノ時機ニ非サル旨獨逸政府ニ回答セリ

三、交渉ノ結果上記ノ如キヲ以テ現在ニ於ケル獨逸ノ航空制限問題ハ武装解除地帶上ノ飛行機分自由トナリタル外概シテ大正十五年ノ議定書ニ準據セラル、モノトス

第二節 獨逸以外ノ諸國

一、土耳其ニ関シテハ特ニ記スヘキコトナシ

三、埃、匈、勃國ニ就テハ夫々軍事監督委員廢止ノ後同委員ノ終未報告ヲ大使會議ヨリ國際聯盟事務局ニ移送セリ爾後陸軍條約ノ履行ニ関シ重要ナル調査ヲ行フヲ要スル場合ニハ對當該國平和條約ノ規定一奉報告附表第一備考參照ニ據リ聯盟理事會之ヲ管掌スルコト、成リ他ノ平和條約實施機關ハ目下主トシテ間接ニ得ル所ノ情報ニ依リ其履行ヲ監視シ在リ  
但シ埃國ニハ監督委員殘務整理機關撤退ノ後英、佛、伊ノ各軍事專門委員ヲ置キ昭和三年八月ヨリ約ニテ月間末決事項ヲ審査セシメタリ

三、上記諸國ニ於テハ軍事上ノ條約違反行為固ヨリナントセサルモ國勢上獨逸ノ如ク顯著ナラス舊聯合國側ノ之ニ對スル注目モ亦比較的薄ク時々断片的情報ヲ得テ必要ニ應ジ矯正ノ手段ヲ講シツ、アルノミ殊ニ我帝國ニ對シテハ關係ナキ事項多キヲ以テ茲ニ詳細ノ記述ヲ省ク

第三章 茶因總撤兵

一、茶因占領軍撤退ノ經過ニ就テハ前篇第五章ニ之ヲ述ヘタリ本報告附稿ノ際（昭和五年六月十日）未タ第三地帶撤兵完了ノ報ニ接セサルモ今後共傾調ニ實施セラレモト觀測ス

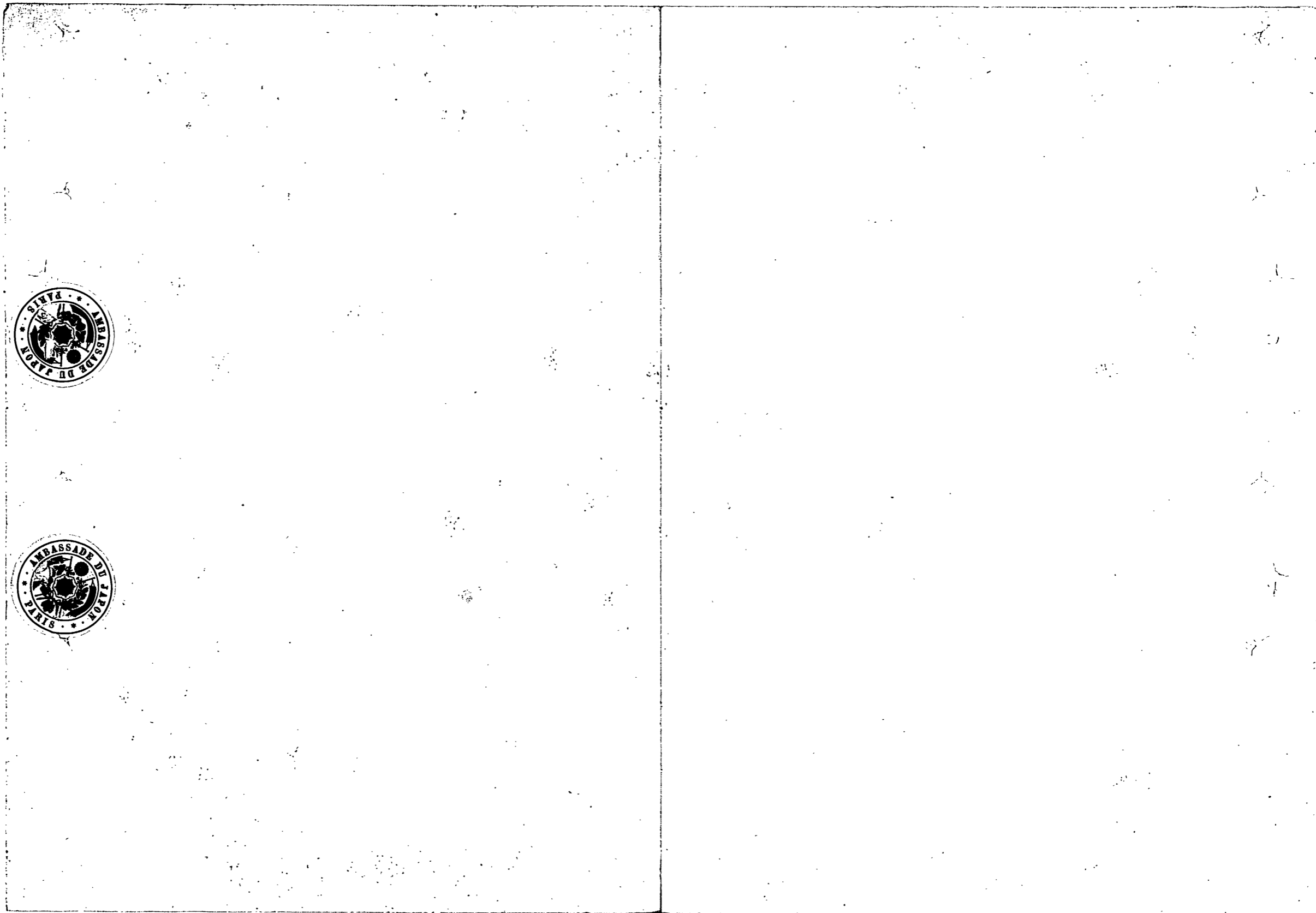
第四章 結言

一、濱古ノ大戦終熄ト共ニ聯合及同盟國ト其敵國トノ間ニ平和條約締結セラレ爾來當ニ十年此間國際關係ノ變遷、戰敗國々勢ノ復興及各國對外政策ノ轉化等各種ノ事由錯綜シ前記條約ノ確切ナル履行必スシモ之ヲ期シ難キニ至リ就中軍事關係ノ諸問題ニ就テハ各國其國防ノ見地ヲ異ニスルヲ以テ徹底的ニ條約所定ノ條項ヲ舊敵國ニ強制スルコト困難ナルモノ莫シトセス

二、從來我帝國委員ハ主トシテ條約ノ公正ナル解釋ニ基キ舊聯合及同盟國委員ト協調シテ之カ著實ナル履行ニ努力シ來レリ今後右方針ニ變差ナカルヘキコト勿論ナリト雖一方舊敵國々内の特殊ノ問題ニ就テハ政測ト離隔スルコト遠キ我帝國ノ地位ニ鑑ミ相當ノ斟酌ヲ加フルコト亦切要ナルヲ信ス

三、昭和三年一月小官命ヲ承ケテ專任陸軍委員ノ職ヲ継キ服務ニ年有半今大過ナク之ヲ終了セントスルハ一ニ我カ關係長官址僚友ノ懇切ナル指導援助ノ賜タルヲ想ヒ衷心感激ノ至ニ堪エス又軍事委員會伊國委員ハ恒ニ好意ヲ以テ茲多ノ軍事研究費用ヲ提供セラレ將來軍務履行上裨益スル所尠カラザリシヲ感ス茲ニ之ヲ添記シテ本報告ノ稿ヲ了ル

下村 定



B-0262

指四部内第壹号

平和條約實施專任陸軍委員業務概況報告 附録

萊因占領軍ノ政務

平和條約實施委員  
陸軍砲兵中佐 下村 定



B-0262

目次

第一章 萊因占領軍ニ関スル條約及取極ノ要旨  
第一節 Versailles 條約ノ沿革  
第二節 條約ニ伴フ取極文書ノ要旨  
第二章 聯合國政務機關ノ組織權能  
第一節 組織  
第二節 最高政務機關ノ權能  
第三節 占領軍ト政務機關トノ關係  
第三章 獨逸側特設政務機關  
第四章 占領軍ト地方トノ關係  
第一節 要旨  
第二節 占領軍ノ駐屯狀態  
第三節 公共施設ノ軍事供用及諸徵發  
第四節 一般人民ノ權利制限ニ関スル件  
第五節 戒嚴及應急警備

B-0262

第一章 萊因占領ニ關スル「Versailles」條約  
抜萃及同條約ニ基ク政務上ノ規定

第一節 「Versailles」條約抜萃

一、萊因地方占領ニ關スル「Versailles」條約中ノ規定左ノ如シ、  
 第四ニハ條約第十四篇保障以下四三ニ條造同篇ノ  
 獨逸國ノ本條約「Versailles」條約ヲ指ス以下同シノ履行ニ關  
 スル保障トシテ同盟國及聯合國ノ軍隊ハ本條約實施後十五  
 年間萊因河ノ西方ニ位スル獨逸國ノ領土及萊因河橋頭地域  
 ヲ占領ス  
 第四ニハ條約ノ各條項ヲ誠實ニ履行シタル場合ニ於テハ  
 獨逸國ノ本條約ノ規定スル占領ハ左ノ如ク順次ニ之ヲ限定スヘ  
 シ

A. 五年後ニ於テ「Cologne」橋頭地域及「Ruhr」河ニ沿ヒ次テ  
 (下略)ニ達スル線ノ北方地域ヨリ撤兵ス  
 B. 十年後ニ於テ「Coblenz」橋頭地域白耳義國及獨逸國  
 和蘭國々境ノ交又点ヨリ「Aix la Chapelle」ノ南方約四吉米  
 ヲ走り峯ヲ傳ヒ(下略)線ノ北方地域ヨリ撤兵ス  
 C. 十五年後ニ於テ「Mainz」橋頭地域「Kehl」橋頭地域及占

領獨逸國地域ノ残部ヨリ撤兵ス  
 右十五年後ニ至リ同盟及聯合國カ挑発ニ基カサル獨逸國ノ  
 侵略ニ對スル保障ヲ以テ充分ナラスト認ムルトキハ所要ノ  
 保障ヲ得ルカ爲必要ノ期間占領軍隊ノ撤退ヲ延期スルコト  
 ヲ得  
 第四三〇條  
 賠償委員會ニ於テ獨逸國カ本條約ニ依リ負擔スル賠償上ノ  
 義務ヲ全部又ハ一部履行セスト認ムルトキハ前記占領中ノ  
 ルト十五年ノ期間滿了タルトテハ第四三九條ニ定ムル  
 地域ノ全部又ハ一部ハ同盟及聯合國ノ兵力ヲ以テ直ニ之ヲ  
 再占領スヘシ  
 第四三一條  
 十五年ノ期間滿了前ニ於テ獨逸國カ本條約ノ一切ノ約定ヲ  
 履行シ終リタルトキハ占領軍ハ直ニ之ヲ撤退スヘシ  
 第四三二條  
 占領ニ關スル事項ニシテ本條約ニ規定セザルモノハ總テ後  
 日ノ取極ヲ以テ之ヲ規定スヘク獨逸國ハ該取極ヲ履行スヘ  
 キコトヲ約ス

二、占領軍經費負擔ニ關スル件及萊因地方武裝解除ノ件略之



第二節 占領地或ノ政務ニ関スル  
各關係國間ノ取極要旨

一、萊因占領軍占領地方ノ政務ハ大正八年(一九一九年)六月二十  
八日「Versailles」條約ノ調印ト共ニ目條約第四三ニ條(前節)ニ  
基テ英、米、佛、白、獨五ヶ國間ニ約定調印セラレタル  
取極文書(Arrangement)ニ據リテ實施セラレタリ  
帝國ハ右ノ取極ニ參加セズ又米國ハ「Versailles」條約ニ批准  
セサル關係上前記取極文書ハ事實上米國ニ適用セラレサリ  
キ

二、右取極文書ノ要旨左ノ如シ

其一、同盟及聯合國代表機關  
占領地ニ於ケル同盟及聯合國最高代表機關トシテ英、米、  
佛、白ノ文官四名ヲ以テ一委員會ヲ組織シ之ヲ萊因高等委  
員會ト稱ス(原名 Haute Commission Interallie des Reunies Rhénans)  
萊因高等委員會ハ占領軍隊ノ維持、安全及其需要ヲ確保ス  
ル爲所要ノ「布告」(Ordonnances)ヲ發スルノ權ヲ有ス  
右ノ布告ハ法律ト同一ノ効力ヲ有ス占領軍及獨逸國官憲ハ  
右布告ト共ニ之ヲ承認スヘキモノトス  
(報告者註)

米國ハ條約ニ批准セサル關係上公式ノ代表者ヲ出ス能  
ハス、爲ニ委員會ハ英、佛、白ノ代表ヲ以テ構成セラレタリ  
其二、地方固有行政司法機關  
獨逸國ノ地方官憲ハ前掲萊因高等委員會ノ布告ニ抵觸スル事  
項ノ外總テ獨逸國ノ法令及同國中央政府ノ統轄ニ據リ行動  
ス

獨逸國ノ各裁判所ハ左ノ掲ケルニ種ノ場合ヲ除クノ外固有  
ノ職域ニ隨ヒ其業務權能ヲ施行ス

a. 占領軍隊ニ屬シ或ハ之ニ使用セラレ、人員ハ同軍ノ規定  
ニ隨ヒ且同軍ノ裁判機關ニ依リ裁判セラレ

b. 占領軍隊ノ人員及其財產ニ對スル總テノ犯罪者ハ占領軍  
ノ裁判機關ニ依リ之ヲ裁判スルコトヲ得

獨逸官憲ハ占領軍ヨリ請求アリタル場合前掲 a、bニ該當ス  
ル犯人ノ逮捕及引渡ヲ拒ムコトヲ得

其三、警官數ノ制限  
占領地内秩序維持ノ爲駐在スヘキ獨逸國警官ノ人員ハ同  
盟及聯合國ノ規定スル數ヲ超エハカラス

其四、徵發及辨償ニ関スル規定  
占領軍ノ宿營ニ関スル規定  
經費負擔ニ関スル規定  
交通通信機關ノ軍事供用ニ関スル規定  
人員及軍需品ニ對スル免稅規定

要領後述

其五、新設警察官署設置上ノ制限  
 武蔵及豫急警備

第二章 聯合國政務機關ノ組織及之ト占領軍トノ關係

第一節 政務機關ノ組織

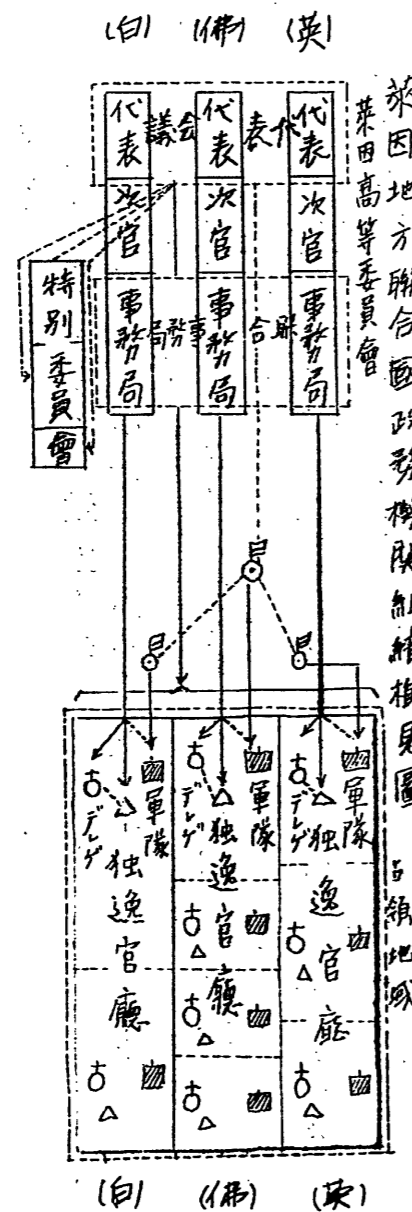
一、上記英國高等委員會ハ占領地方ニ於ケル最高政務機關ニシテ英、佛、白三國ノ代表文官ヲ以テ集成セラレ各國代表ハ夫々當該國政府ノ命ヲ承ケテ自國軍隊ノ占領地域ニ於ケル政務ヲ律シ各國軍ニ共通スル事項ニ就テハ各代表會議ノ上高等委員會ノ名ヲ以テ次節ニ掲クル所ノ權能ヲ行使シタリ

二、各國代表ハ夫々之ニ隸屬スル一名ノ次官 (Délégué Général) ト事務局 (Haut Commissariat) トヲ有シ次官ハ代表ノ輔佐代理等ニ任シ事務局ハ代表ノ命ヲ承ケ主トシテ自國軍隊占領地域ニ於ケル政務處理ノ局ニ當レリ  
 別ニ聯合事務局 (General Staff Committee) 及特別委員會 (Committee) アリ前者ハ常置機關ニシテ占領地全般ニ亘ル細務ヲ處理シ後者ハ臨時各國選出ノ委員ヲ以テ組織シ行政、交通、經濟、法律

徵稅等專門事項ニ關シ占領地全般ニ亘ル調査高等委員會代表會議ノ諮問ニ應セリ

三、占領地ニ於ケル各級獨逸官廳ニ對スル連絡機關トシテ大正十四(一九二五)年以前ニ於テハ各行政管區毎ニ一文官ヲ常時分派シ高等委員會ト管區内自國軍隊及關係官廳トノ仲介細部ニ關シテハ關係官廳ニ對スル政務上ノ直接區處ニ任セシメ之ヲ「Deputy」ト稱セリ  
 右ノ制度ハ一九二五、六年占領軍各機關ヲ縮小セル際ニ之ヲ止シ其後各地方官憲ニ對スル連絡ハ高等委員會自ラ之ヲ行フカ若クハ當該地域占領軍隊ヲ介シテ之ヲ行ヒ來レリ

四、以上ノ組織ヲ一括圖示スレハ次ノ如シ



B-0262

備考

- 一、命令區處ノ關係ヲ示ス
- 二、黑書ハ各國限リ、点線ハ聯合國全般ニ亘ル系統ヲ示ス
- 三、各國代表ト當該國軍司令官トノ關係ハ各々其國ノ規定ニ據ル
- 四、フアレゲルノ制度ハ一九二五年ニ廢止セラレ(本支参照)

### 第二節 最高政務機關ノ權能

一、禁因高等委員會ハ自ラ占領地百般ノ政務ヲ統轄スルモノニ非サルコト上述取極文書ニ依リテ明カトリ即チ同地方ノ統治權ハ獨逸官憲ニ存シ委員會ハ占領軍ノ維持安全及需要ニ關係アル事項ニ就テノニ獨逸官憲住民及占領軍隊ニ對シ命令(區處)シタリ

二、占領軍ノ維持安全及需要ナル字義ノ範圍ヲ具體的ニ定ムルコトハ頗ル困難ニシテ時ノ形勢ト事件具物ニ就テ之ヲ決スルノ外ナク戰後日尚淡キ項ニ於テハ占領地政務ニ對スル高等委員會ノ干渉範圍頗ル廣汎ニシテ獨逸官民ニ對スル要求而多最ナリト雖爾後年月ノ經過ニ伴ヒ干渉要求ノ程度漸次輕減セラレタリ

政務干典ノ範圍ハ下記(甲)(乙)ノ如シ

#### (甲) 内政ニ對スル干典

##### 其一 立法事項

「Versailles」條約ノ實施ト共ニ獨逸中央政府及地方官憲ハ占領地ノ政務ニ關シ高等委員會ノ布告ニ抵觸セサル限リ自由ニ所要ノ法令規則ヲ發布シ得ルニ至レリ、然レトモ取極文書ノ定ムル如ク事苟モ占領軍ノ維持安全及需要ニ關係アル限リ左記兩手段ニ據リ立法行為ニ干典セリ、獨逸法令ノ施行ニ對スル制限高等委員會ノ有セシ此種權能ハ一國元首ノ享有スル法律不裁可權トハ自ラ性質ヲ異ニシ法令ノ成立及發布ヲ妨クルモノニ非ス某法令規則ノ一部若ハ全文ニ就テ某期間占領地ニ於ケル施行ヲ禁制スルニ止マレリ

「布告」ノ發布及施行  
 禁因高等委員會ノ布告スル「布告」ハ占領地城ノ官憲住民及聯合國ノ占領軍協ニ對シ法律ト同様ノ効力ヲ有セルコト取極文書ノ定ムル所ノ如シ

其二 行政事項  
 禁因高等委員會ハ占領軍ノ維持安全及需要ニ關スルモノニ限リ地方行政ニ干典セリ其要領左ノ如シ  
 行政上ノ組織及職員ノ任免ニ對スル干典

占領地ニ於ケル行政上ノ組織及官公廳ノ維持ハ條約實施以前ニ於テハ高等委員會ハ大体ニ於テ「Verordening」條約實施以前ノ獨逸側ニ於テ定メタルモノヲ尊重存置シタリ而シテ該組織ノ改正職員ノ任免等ニ方リテハ事ノ輕易ナルモノヲ附クノ外當該官憲ヲシテ事前ニ之ヲ報告セシム要スレハ修正ヲ要スルノ處置ヲ執レリ

行政ノ運用ニ對スル干典  
行政ノ運用ニ關シテハ高等委員會ハ其發布セル布告ノ履行其他同委員會ノ施行ヲ制限セル獨逸法令規則ノ履行如何ヲ監視シ若シ官公廳ノ措置ニシテ違犯アリ又ハ不十分ト認メタルトキハ直ニ矯正ノ手段ヲ講ン要スレハ責任者ニ對シ制裁ヲ加ヘタリ

其三、司法事項

一、萊因高等委員會ハ之ニ直屬スル裁判機關ヲ有セス隨テ占領地域内ニ於テ發生セル犯罪ニ對スル裁判及民事訴訟ハ事件ノ性質ニ隨ヒ占領軍所屬裁判所（軍法會議及特別裁判所）若ハ獨逸側本來ノ裁判所ニ分課シテ處理セシメタリ

二、占領軍所屬裁判所ハ各國軍毎ニ其國法ニ遵ヒテ之ヲ設置シ軍法會議及特別裁判所ニ區別セリ  
軍法會議ハ各國固有ノ陸軍刑法ニ抵觸スハキ犯罪ノ裁判ニ任シ特別裁判所ハ其ノ以外ノ事件ニシテ萊因高等委員會カ

獨逸本來ノ裁判所ニ委スヘカラスト判定シタルモノヲ取扱ヘリ

(乙) 對外事項ニ對スル干典

一、萊因高等委員會ハ獨逸對聯合國間ノ一般の交渉若ハ係爭事件ニ對シテハ假令其事件カ萊因地方ニ關係アルモノト雖モ占領軍ノ安全維持及需要ニ觸レサル限り之ニ干典スルノ權能ヲ有セザリキ

二、萊因地方ニ於テ生起セル獨逸對聯合國間ノ諸問題中其二三ヲ例示セハ左ノ如シ

- a. 萊因地方ノ武備撤廢其他經濟產業交通等ヲウエルカイニ條約ニ據リ獨逸側ニ義務ヲ生シタル事項ノ履行
  - b. 一般外人ハ占領軍機關ニ屬スル者ヲ除ク一ノ保護及之ニ關スル司法事件
  - c. 其他獨逸ト舊聯合國トノ間ニ於ケル公私ノ利害係爭而シテaニ關シテハ條約實施監督機關タル舊聯合國大使會議若ハ當該政府ノ委囑ニ依リ所要ノ情報ヲ提供シ或ハ單ニ事務上ニ於ケル仲介ヲ行フノ外高等委員會自ラ履行ノ監督要求等ニ應リシコトナシ
- b及cニ關シテハ事件ノ性質ニ從ヒ獨逸官憲自ラ其國內法ニ據テ之ヲ處理シ或ハ獨逸政府ト關係國政府トノ直接交渉

ニ委ヤラレ高第委員會ニニ干兵セルコトナシ

### 第三節 占領軍ト政務機關トノ關係

一、占領軍ハ政務上ニ関シ萊因高等委員會ノ布告ニ遵照シカ區  
處ヲ受クヘキコト取極文書(第二章第二節ノニ参照)ニ據  
リテ明ヤナリト雖各國軍司令官ト當該國政府代表(Head Government  
)トノ關係ニ就テハ夫々自國ノ規定慣例ニ遵ヘリ  
各國軍相互間ニ於テハ休戰當時ヨリノ慣例ト先任ノ關係ト  
ニ基キ併國軍司令官軍事上ノ指揮ニ任シタリ

### 第三章 獨逸側特設政務機關

一、占領地域ニ於ケル獨逸ノ政務組織ハ在來ノ建制ニ遵フモ  
ニシテ次項ニ掲ケルモノ、外國内他地方ト格段ノ差異アル  
コトナシ

二、獨逸政府ハ其代表機關トシテ占領ノ當初ヨリ「Commissariat d'  
Sursure」(主權代表府)ヲ萊因高等委員會ノ所在地ニ設置シ  
被占領地方ノ政務ニ関シ同委員會トノ折衝ニ當ラシメタリ  
又同政府ハ占領地域ニ於ケル國有財產陸水路鉄道及電信事

務ニ關スル連絡機關ヲ占領軍總司令部ノ許ニ設置シ若ハ州  
廳ノ所在地ニ特設セリ

三、「Commissariat d'Empire」ハ「Verwaltung」條約調印後獨逸側ノ  
希望ニ基キ設置セラレタルモノニシテ當初ハ之ト萊因高等  
委員會トノ交渉用滑ヲ缺キ高トニ波瀾甚カラサリシカ大正  
十年(一九一一年)五月初代ノ代表交送後ハ西者ノ關係概  
シテ円満ナリシト云フ

### 第四章 占領軍ト地方トノ關係

#### 第一節 要旨

一、占領軍ト地方トノ關係ヲ律スル諸規定就中下記公并施設ノ  
軍事供用一般人民ノ權利制限ニ關スルモノハ相當峻嚴ニシ  
テ當初ハ之カ施行ニ關シ軍ト獨逸政府或ハ被占領地方民ト  
ノ間ニ波瀾衝突甚カラサリシカ戰後年月ノ經過ト共ニ聯合  
國側ハ漸次此等規定ノ適用ヲ緩ニシ被占領地方民亦軍其物  
ニ對シテハ逐次好意アル態度ヲ示シ來レルヲ以テ西者ノ關  
係漸次相融和シ末期ニ於テハ格段ノ反目ヲ見ルコト少キニ  
至レリ

B-0262

第二節 占領軍駐屯状態

一、占領軍隊ハ獨逸側ノ舊兵營ヲ利用シテ配置セラレ將校下士及其家族並ニ萊因高等委員會ノ職員及其家族ハ民家ニ宿營セシムル規定ナリキ  
獨逸側ハ占領軍ノ爲各都市毎ニ在來ノ建物ノ外所要ノ兵營及住宅等ヲ建造シテ之ヲ提供シタリ、爾後軍ノ縮少ニ伴ヒ民有建築物ハ逐次解放セラレ占領末期ニ於ケル軍ノ駐屯状態ハ自國内衛戍地ニ於ケルト大差ナカリキ

第三節 公共施設ノ軍事供用及諸徵發

一、獨逸政府ハ前節軍隊其他占領機關所屬人員ノ居住ニ要スル家屋ノ外左ニ掲ケルモノヲ必要ノ程度ニ占領軍ニ提供スルノ義務ヲ負擔シタリ  
司令部其他事務所タルハキ建築物  
工場 倉庫 病院 被服洗濯所  
占領軍職員子弟ノ爲ノ校舍  
廠舎 家畜飼養場  
演習場 歩砲兵射擊場  
劇場 活動寫真館及運動場

二、占領軍總司令官ハ軍事上必要ト認ムルトキ各種交通機關ハ鐵道、電鉄、乘合自動車、陸路、水路等ノ職員ニ對シ所要ノ命令ヲ與ヘ當該機關ヲ利用セリ  
一定ノ證明ヲ有スル軍隊及軍人ノ鐵道輸送ハ無料タリキ

三、占領軍ハ自ラ電信電話ノ設備ヲ開設セルノ外地方在來ノ同種機關ヲ軍事上ノ目的ニ利用スル爲軍司令官ニ於テ所要ノ供用命令ヲ發スルノ權ヲ有セリ  
地方機關ニ由ル公用通信ハ無料タリキ

四、占領軍ハ自ラ軍事郵便ノ勤務ニ必要ナル施設人員ヲ備フルノ外前各項ニ準シ地方在來ノ郵便機關ヲ利用セリ  
占領軍ノ發、受スル郵便物ハ無料ノ取扱ヲ受タルノミナラズ其損傷、開封、喪失、場合ニ對シテハ獨逸政府其責ニ任セリ

五、占領軍隊及萊因高等委員會ニ屬スル者ハ獨逸ニ對シ一切ノ納税ヲ免除セラレ又右占領機關ニ送致セラレハキ軍需其他ノ補給品ハ總テ關稅ヲ免除セラレタリ

六、諸徵發ニ關シテハ占領軍ハ一九〇七年海牙條約ノ規定ニ準據シテ之ヲ實施シ徵發ニ基テ賠償ハ獨逸側及聯合國側混成

一、局地委員會ニ依リ通常各國軍占領地域毎ニ必要ノ制度其額ヲ議定セリ

第四節 一般人民ノ權利制限ニ關スル件

一、官公吏ノ任命  
占領地域内ニ於ケル重要ナル官公吏（其範圍ハ特定ノ協約ニ依リ之ヲ律ス）ノ任命、轉補ニ方リテハ獨逸側主務官憲ヨリ事前ニ於テ之ヲ萊因高等委員會ニ以テ報シ其承認ヲ得タル後發令セリ  
職務上ノ過失若ハ犯罪ニ基キ萊因高等委員會ノ發勅ニ由リ罷免セラレタル官公吏ハ同委員會ノ認諾アルニ非サレハ再ヒ占領地域内ニ服務スルコトヲ得カリキ

二、訴訟及裁判  
第二章第二節（甲）其三參照

三、旅行移轉等  
占領地域内ニ於ケル旅行移轉及滞在ニ就テハ其獨逸人タルト外人タルトニ於テ又國內他地方ヨリ來ルト外國ヨリ來ルトニ係ラス有効旅客券若ハ身元証明書（後者ハ獨逸内地ヨリ來ルト獨逸人ニ適用ス）ヲ携帶シ且旅行者ニ對スル獨逸國法ニ牴觸セサル限り何等ノ制限ナカリキ  
但シ獨逸現役陸海軍々人ニシテ占領地域内ヲ旅行シ若ハ同地域内ニ滞在スル爲ニハ聯合國占領軍憲ノ許可ヲ受ケタルトヲ必要トシ且同軍司令官ノ特ニ認可シタル場合ノ外軍服及器具ヲ著用スルコトヲ禁セラレタリ  
又占領軍憲ハ旅行者旅館及關係獨逸官憲ニ對シ必要ニ應シテ臨檢ヲ行フノ權ヲ有セリ

四、信書ノ點檢及通信手段ノ取締  
占領當初ニ於テハ通信點檢ノ規定アリシモ大正十四年（一九二五年）十二月以來之ヲ廢止セラレタリ  
無線電信裝置ハ現在ニ於テハ受信用ノモノニ限り占領軍憲ノ許可ヲ得テ之ヲ存置若ハ創設スルコトヲ得ル規定ナリキ  
傳書鳩飼養者ハ總テ占領軍憲ニ届出ヲ要セリ

五、刊行物及言論ノ取締  
公共ノ治安ヲ妨害シ若ハ占領軍ノ安全又ハ名譽ヲ損フハキ廣アル各種刊行物、記述、唱歌、音樂書、繪画、映畫、其他理化學的手段ニ依ル表現物料ニシテ公衆ニ發表スルコトヲ目的トスルモノニ對シテハ必要ニ應シ萊因高等委員會（緊急ノ場合ニ在リテハ占領軍憲）之ヲ禁止シ尚要スレハ其材料ヲ沒收セリ

右ト同様ノ性質ヲ有スル演劇、活動寫真、所作事、演說、音樂會、講演、其他之ニ類スル各種ノ演出手段ニ就テモ亦然リ  
前ニ項ニ關シ高等委員會ハ必要ニ應シ關係者ヲ招致シ禁止或ハ原書若ハ演出法ノ修正等ニ就テノ具體的指令ヲ與ヘ又違反セル責任者ニ對シテ相當ノ制裁ヲ行フノ權ヲ有セリ  
高等委員會ハ占領地以外ニ於テ著作、發行、調製セラレタル第一項該當ノ物料ニ對シテモ其輸入若ハ公開ヲ禁止スルノ權ヲ有セリ

六、集會及行列運動等

一般民衆ノ集會、行列運動等ハ主宰者ヨリ其目的及發起者ノ名簿ヲ具シテ實行四十八時間前ニ當該衛戍司令官ニ之ヲ届告スルヲ要シ同官若シ占領軍ノ安全若ハ公共ノ治安ヲ損フト認マルトキハ直ニ高等委員會ニ報告シ同委員會ハ之ヲ禁止若ハ矯正ノ手段ヲ執レリ  
占領軍憲ハ要スレハ諸集會ニ臨檢者ヲ派遣ス

七、Locker-Outlet及同盟罷業

占領軍ノ維持、安全及需要ニ關係アル公私諸機關、工場等ノ管理者ハ豫メ高等委員會ニ届出ツルコトヲLocker-Outletヲ宣言シ又其使用人ニアリテハ同委員會ニ届出スシテ同盟

罷業ヲ爲スコトヲ得サル規定ナリキ

八、武器彈藥ノ携帶及輸送

官吏タルト否トヲ問ハス火器彈藥ヲ携帶スル爲ニハ一定ノ許可証ニ私販若用者ハ同証ノ外一定ノ腕章ヲ要スノヲ必要トシ又火器ノ種類及性能及一挺ニ對スル彈藥數等ハ布告ニ依リ嚴密ニ限定セラレタリ  
徹銃ノ製造、保管及使用等ニ就テモ亦具體的ノ規定アリタリ  
Versaillesノ條約ニ基キ實施監督委員カ兵器ト認メタル武器彈藥、爆藥、其他ノ器械(別ニ一定ノ規格アリ)ハ占領地域内ニ於テ輸送スルコトヲ得ス、但シ官公吏カ職務上必要トスルモノニ限リ占領軍司令官ノ認定ヲ經テ之カ輸送ヲ許可セラレタリ

九、航空

民間航空機ノ占領地域上空飛行ニハ高等委員會ノ認可ヲ要シ又獨逸陸海軍人及警察隊員ノ同地域上ニ於ケル航空機搭乗ハ絶對ニ禁止セラレタリ

一〇、

以上ノ外占領當初ニ在リテハ一層廣汎且嚴重ナル規定アリシモ逐次撤廃セラレ前諸項ノ諸制限モ必要最小限度ニ適用



セラルニ至レリ

第五節 戒嚴及應急警備

萊因高等委員會ハ必要ト認ムル場合ニ於テハ占領地ノ一部  
若ハ全部ニ對シテ戒嚴ヲ宣告スルノ權ヲ有セリ  
右軍憲ハ當該管區内ニ於テ公安カ擾乱若ハ脅威セラレ事緊  
急ト認ムルトキハ秩序維持ノ爲ニ要スル總テノ應急處置ヲ  
取ルコトノ自由ヲ有セリ



B-0262